
2016年4月

株式会社日本政策投資銀行東北支店

株式会社日本経済研究所

インバウンド客受け入れによる 東北の宿泊施設の成長戦略に関する調査

 **株式会社日本政策投資銀行 東北支店**

 **株式会社 日本経済研究所**
Japan Economic Research Institute Inc.

目次

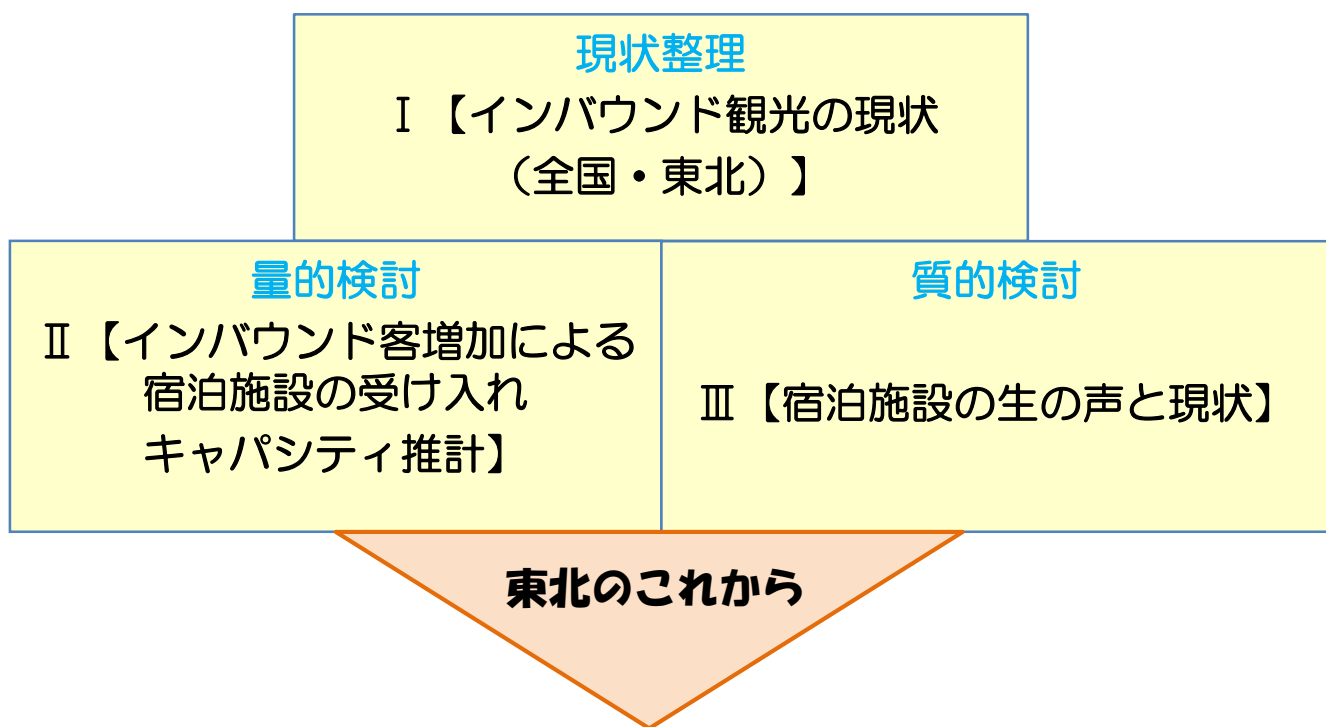
本調査の目的	P 2
本調査の概要	P 3
主要使用データ概要	P 4
I. インバウンド観光の現状	P 5
II. インバウンド客増加による宿泊施設の受け入れキャパシティ推計	P 20
III. 宿泊施設の生の声と現状	P 27
IV. 宿泊施設の成長に向けた検討	P 35
参考資料	P 45

本調査の目的

- 日本を訪れる外国人数は増加傾向にあり、2015年には年間の訪日外客数が約1,974万人に達しました。政府は2020年：4,000万人を目標に様々な取り組みを進めています。現状では、インバウンド客の多くはゴールデンルート（東京・富士山・大阪）や大都市圏を訪れる傾向にありますが、観光ルート開発や訪日リピーターの増加に伴い、将来的には東北をはじめとする地方圏にも、多くのインバウンド客が訪れることが期待され始めました。今後、地方圏に多くの観光客を集客するには、魅力的な観光スポット、交通、宿泊、飲食、サービス対応など、様々な要素・課題が関連すると考えられます。
- 株式会社日本政策投資銀行東北支店では、2016年1月に「2015 東北インバウンド（アジア8地域）意向調査」を発表するなど、継続して東北の観光産業の推進に取り組んでいます。今回の「インバウンド客受け入れによる東北の宿泊施設の成長戦略に関する調査」（以下、「本調査」）においては、株式会社日本経済研究所（以下、「日経研」）と共同で、観光産業の要でもある宿泊業に焦点をあて、インバウンドに関するデータ等整理を行いました。
- 本調査では、観光産業を通じた東北の交流人口の増加や地方活性化をはじめ、「将来的に東北の宿泊施設が成長していくために、どのような取り組みが求められるか」等の検討を通じて、宿泊施設の成長支援につなげていくことを目的とし、東北の将来的な観光への提言をまとめております。
- 本調査の実施にあたり、東北ならびに全国の観光関係団体・企業の皆さまにヒアリング・資料提供等で多大なご協力を頂きました。ここに記して、深く御礼を申し上げます。

本調査の概要

- 本調査では、「インバウンド観光の現状」、「インバウンド客増加による宿泊施設の受け入れキャパシティ推計」、「宿泊施設の生の声と現状」の3つの項目について、データ・ヒアリングを基に集計・考察した。
- データ・ヒアリング内容に基づき、生の声や事例を挙げながら「東北の宿泊施設の成長」に向け検討した上で、今後の東北の観光推進に向けた提言を行っていく。



Ⅳ【宿泊施設の成長に向けて】

- ①自社の取り組み方針を検討
- ②顧客の嗜好に合ったサービス・工夫を実施
- ③他の宿泊施設・地域と連携

主要使用データ概要

- 日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」

訪日外客とは、国籍にもとづく法務省集計による外国人正規入国者から、日本を主たる居住国とする永住者等の外国人を除き、これに外国人一時上陸客等を加えた入国外国人旅行者のことである。駐在員やその家族、留学生等の入国者・再入国者は訪日外客に含まれる。

- 観光庁「訪日外国人旅行者消費動向調査」

主要11空海港において、日本を出国する訪日外国人客（トランジット、乗員、1年以上の滞在者等を除く）を対象に、四半期ごとに実施しているインタビュー調査。回答者の属性（国籍、性別、年齢等）、訪日目的、主な宿泊地と訪問地、消費額、訪日旅行に対する満足度等の意識調査を実施。

- 観光庁「宿泊旅行統計調査」

標本理論に基づき抽出されたホテル、旅館、簡易宿所、会社・団体の宿泊所などを対象に、四半期の各月の延べ・実宿泊者数及び外国人延べ・実宿泊者数、延べ宿泊者数の居住地別内訳（県内、県外の別）、外国人延べ宿泊者数の国籍別内訳等を調査（自計申告・郵送回収）。

- 全国主要大型旅館・施設等 約21施設へのヒアリング

I. インバウンド観光の現状

I. インバウンド観光の現状（全国・東北）

直近のインバウンドの傾向

項目	区分	トピックス		対応頁
訪日外客数推移※ 1	全国	2015年訪日外客数 約1974万人 (前年度比47.1%増) 訪日外客数の約4人に1人は 中国人 韓国人・台湾人は約5人に1人の 割合	うち、約499万人は 中国人であり、続いて韓国人が 約400万人、台湾人が約368万人で ある。 爆買いで話題の中国人は 大都市圏へ集中する傾向	p.8-9
国別・訪日外客数の 伸び率※ 1	全国	2015年の傾向では 中国（前年比107.3%増） を筆頭としたアジアからの 訪日外国人数が大幅に伸びた	伸び率は前年比（%）で 中国（107.3）・香港（64.6）・ ベトナム（49.2）・フィリピン （45.7）・韓国（45.3）	p.10
外国人延べ宿泊者数 ※ 2	全国	2015年全国外国人延べ宿泊者数 は約6118万人 (前年度比45%増) 約4人に1人が中国人、 約6人に1人が台湾人、 約9人に1人が韓国人	うち、約1646万人は 中国人であり、 続いて台湾人が約1071万人、 韓国人が約680万人である	p.12
	東北	東北における 外国人延べ宿泊者の 約3人に1人が台湾人 中国人、韓国人、アメリカ人は それぞれ約10人に1人の割合	東北は台湾から人気が高く、 地方の他地域と比較すると、 アメリカ人の比率も高い傾向	p.12
東北における 外国人延べ宿泊者数 ※ 2	東北	東北の外国人延べ宿泊者数は 北海道の10分の1に満たない	東北6県における 外国人延べ宿泊者数の 年計は51万人泊と、前年比+44% と大幅に伸びた。震災前の 平成22年比だと+1%の伸び	p.14
月別・訪日外客数推移 ※ 1	全国	中国は 7～8月にかけて増加 韓国や香港においては 冬場に増加	春節爆買いとして 冬場の訪日に脚光が当たる一方、 最も外客数が増えるのは 夏場である	p.9
東北における 月別・外国人 宿泊者推移 (月別延べ宿泊者) ※ 2	東北	東北では 紅葉シーズン の 10月と11月、および4月に増加	全国的に外客数が増える 夏場と冬場の集客が 東北では少ない	p.18

※ 1 出典：日本政府観光局（JNTO）2015 データ 地域別

※ 2 出典：観光庁「宿泊旅行統計調査平成27年（2015年）」従業員10人以上の施設が対象

I. インバウンド観光の現状（東北）

直近のインバウンドの傾向

県名	県別延べ宿泊者数の国籍から見える特徴	訪日外国人の宿泊先	宿泊目的別にみた訪日外国人の割合
青森	約4人に1人が台湾人 韓国人とアメリカ人は 約5人に1人の割合	5割近くがビジネスホテル に宿泊	訪問者の7割以上が 観光・レジャー目的
岩手	半分以上が台湾人	6割近くがリゾートホテル に宿泊	訪問者の6割以上が 観光・レジャー目的
宮城	約3人に1人が台湾人 中国人とアメリカ人は 約8人に1人の割合	4割近くがビジネスホテル に宿泊	訪問者の4割以上が 観光・レジャー目的
秋田	約3人に1人は台湾人 約4人に1人が韓国人	4割以上が旅館に宿泊	訪問者の6割以上が 観光・レジャー目的
山形	約5人に2人は台湾人 約10人に1人は韓国人	5割以上が旅館に宿泊	訪問者の6割以上が 観光・レジャー目的
福島	約4人に1人が台湾人 中国人は約7人に1人 アメリカ人が 約8人に1人	約5割がビジネスホテルに 宿泊	訪問者の約3割が 観光・レジャー目的
対応頁	p.13	p.17	p.17

※出典：日本政府観光局（JNTO）2015 データ
観光庁「宿泊旅行統計調査平成27年（2015年）」従業員10人以上の施設が対象

I. インバウンド観光の現状（全国）

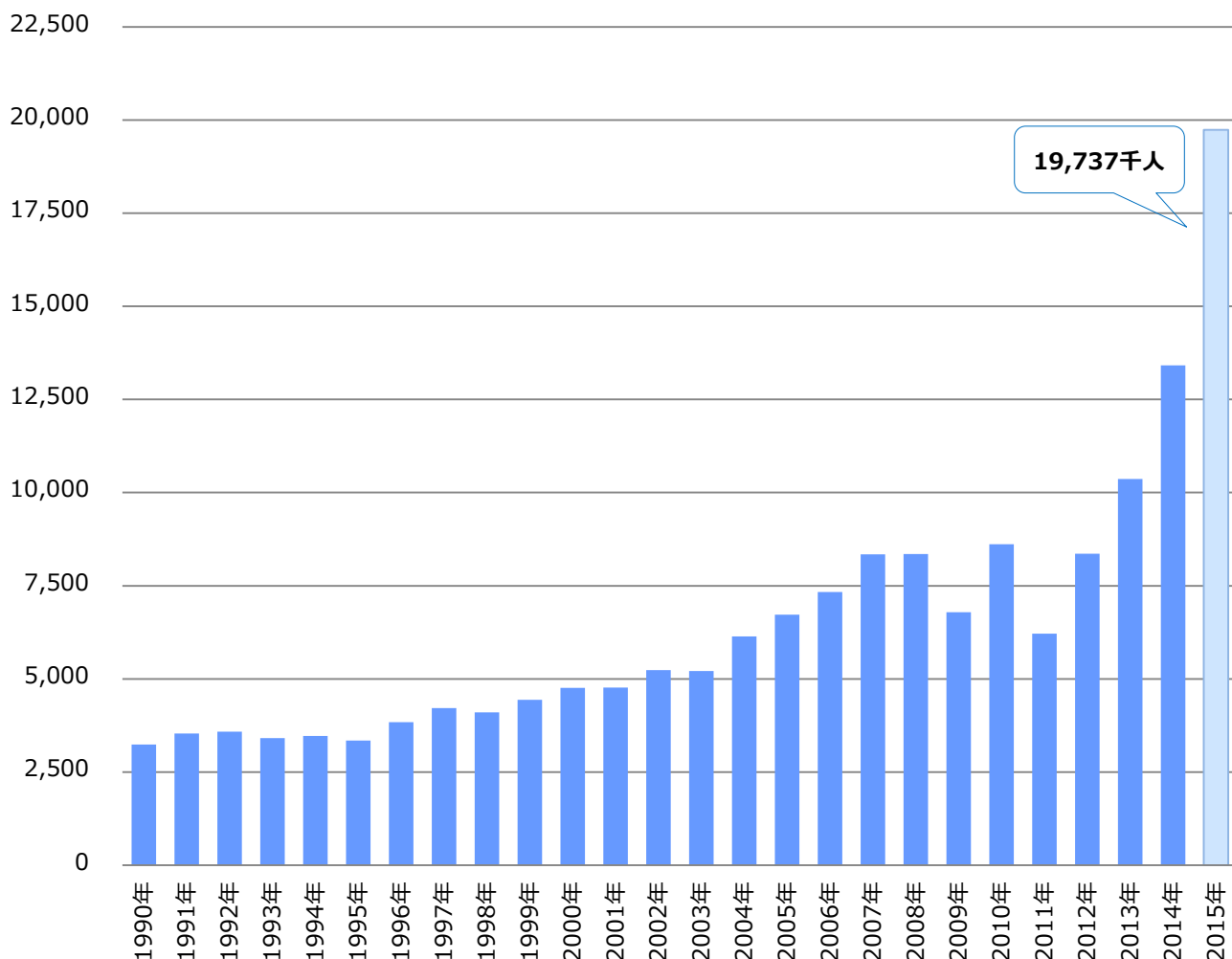
1. インバウンド客の動向

①訪日外客数推移（長期・年）

・訪日外客数は、リーマンショックおよび東日本大震災の影響で減少したもののその後は増加し続け、2014 年には13,413千人（前年比29.4%増）、2015 年は19,737千人（前年比47.1%増）で過去最大の伸び率。

訪日外客数推移（千人）

年別訪日外客数の推移



※出典：日本政府観光局（JNTO）データより日経研作成

訪日外客＝訪日外国人旅行者。国籍に基づく法務省集計による外国人正規入国者数から日本に居住する外国人を除き、これに外国人一時上陸客等を加えた入国外国人旅行者。

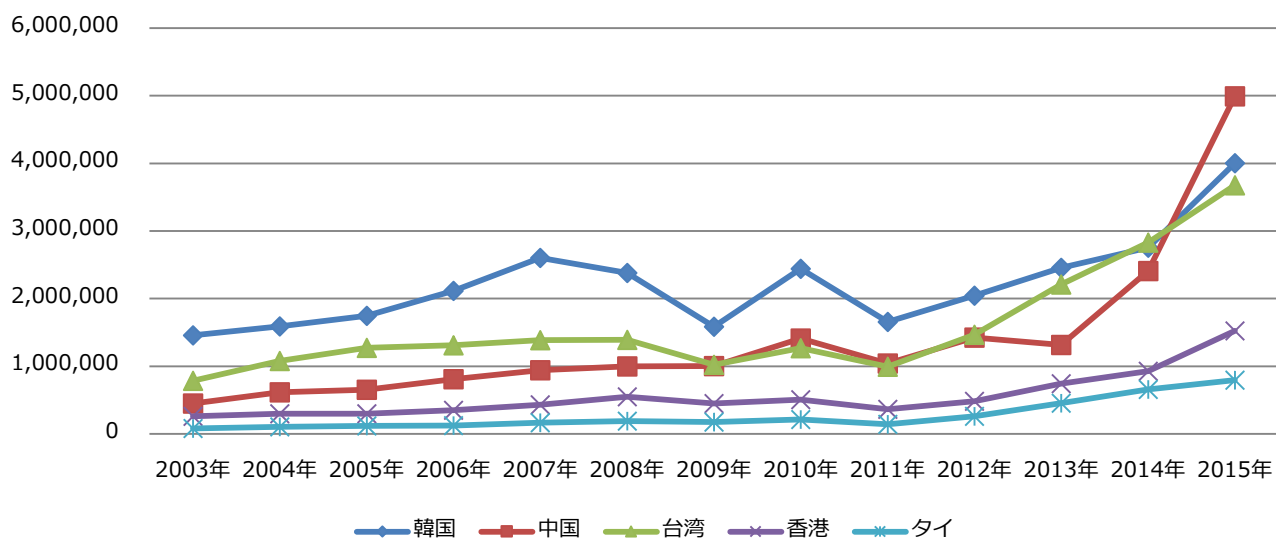
I. インバウンド観光の現状（全国）

1. インバウンド客の動向

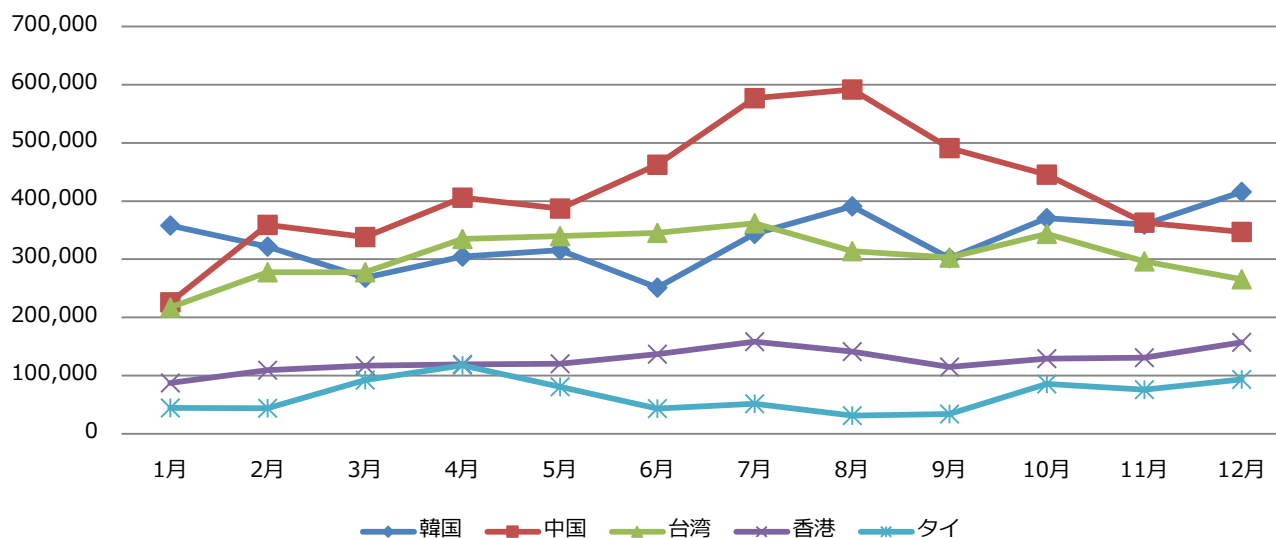
②年別・月別訪日外国人数（アジア上位5か国）

・アジア上位5か国の年別・訪日外客数推移をみると、近年では**中国が急増**しており、直近の2015年では韓国・台湾を抜いている。月別では全体的に7月に増加する傾向がみられるものの、韓国や香港においては冬場に増加、タイはソンクラーン期間（旧正月）である4月に増加しており、国によってばらつきがみられる。

年別・訪日外客数推移（アジア上位5か国）（人）



月別・訪日外客数推移（アジア上位5か国）（人）



※出典：日本政府観光局（JNTO）データより

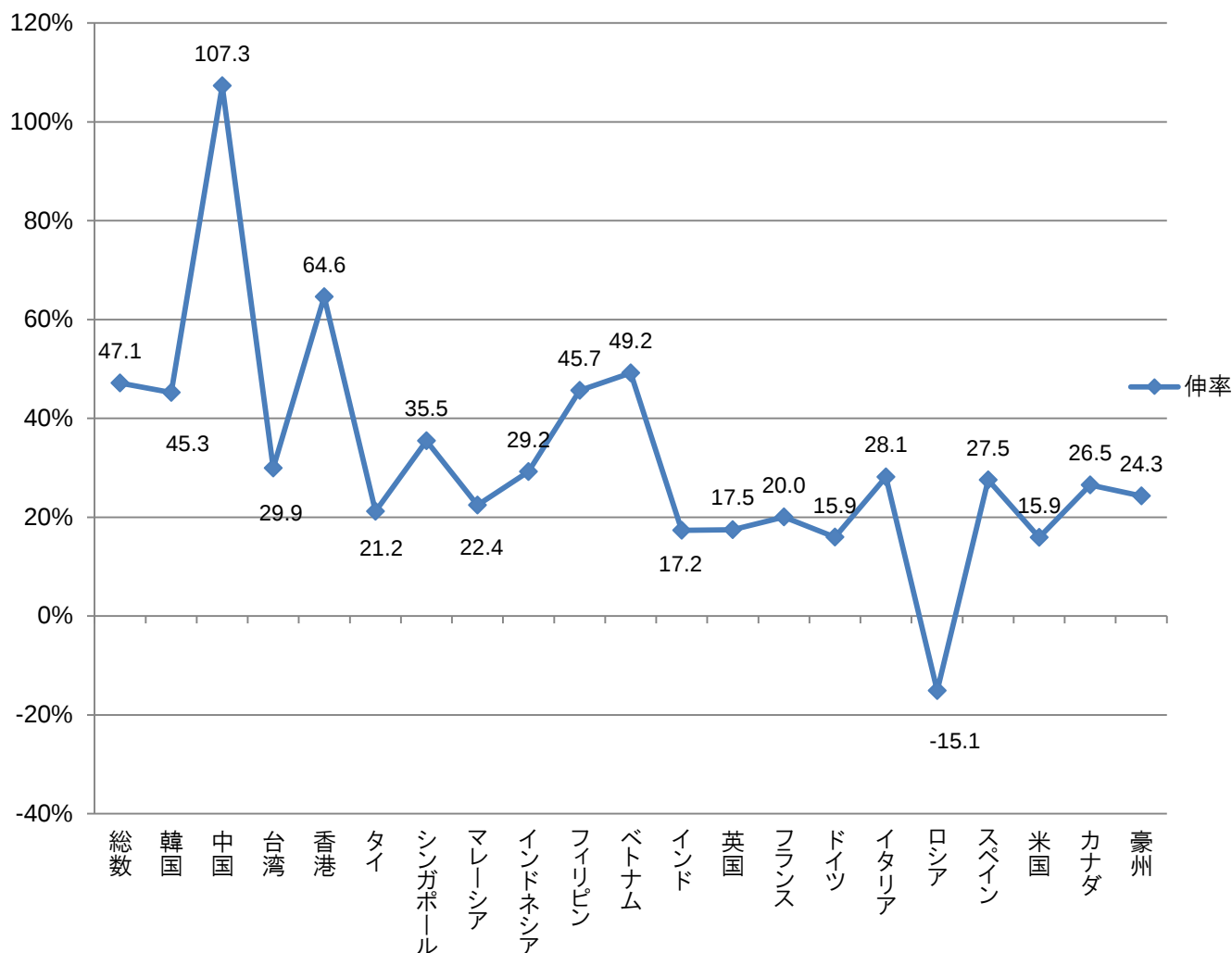
I. インバウンド観光の現状（全国）

1. インバウンド客の動向

③2015年 国別・訪日外客数の伸び率

・2015年の傾向としては、中国を筆頭としたアジアからの訪問外客数が大幅に伸びている。

2015年 国別・訪日外客数の伸び率



※出典：日本政府観光局（JNTO）データより

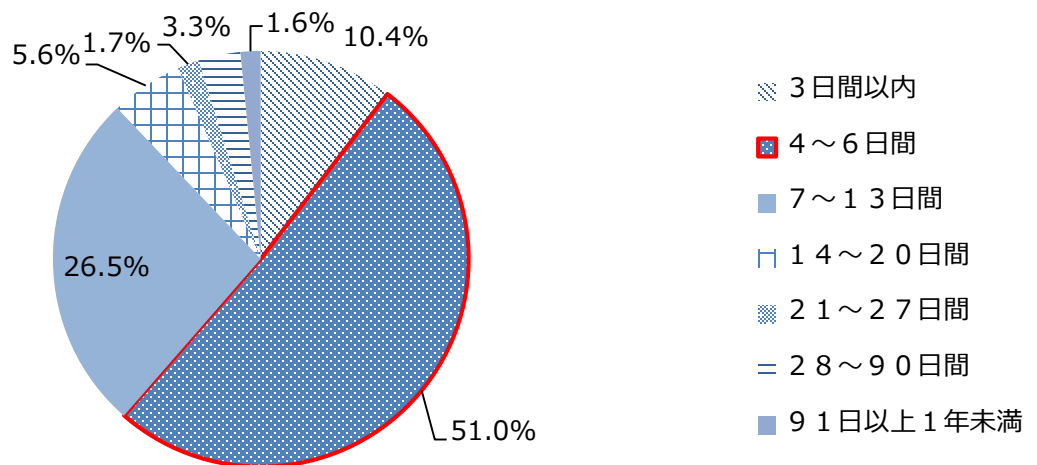
I. インバウンド観光の現状（全国）

1. インバウンド客の動向

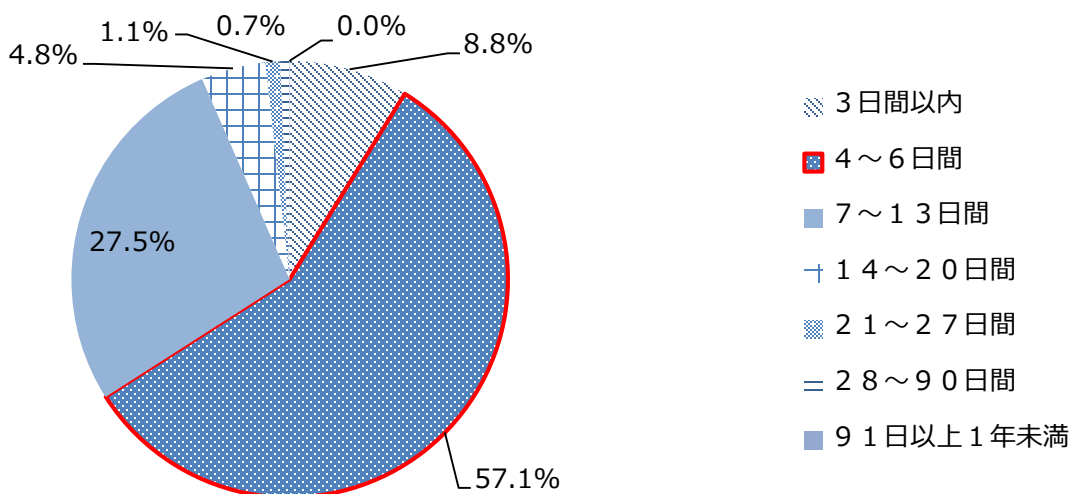
④訪日外国人の滞在日数

・「全目的」でみると訪日外国人の滞在日数として「4～6日間」を選択した割合は、**51.0%**と半数を上回る、また、「観光・レジャー目的別」に見た場合も「4～6日間」を選択した割合は**57.1%**と半数を超える。

平成27年 訪日外国人の滞在日数 全目的（%）



平成27年 訪日外国人の滞在日数 観光・レジャー目的（%）



※出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」より作成

訪問率：訪日外国人が、どのような目的で、どの都道府県に足を運んだかを集計。全国の空港で調査員が直接、外国人観光客に聞き取りを行って算出した数値で、回答者は地名を10カ所まで書き込むことができる。

平成27年度の調査では、38,840人の外国人観光客が回答。

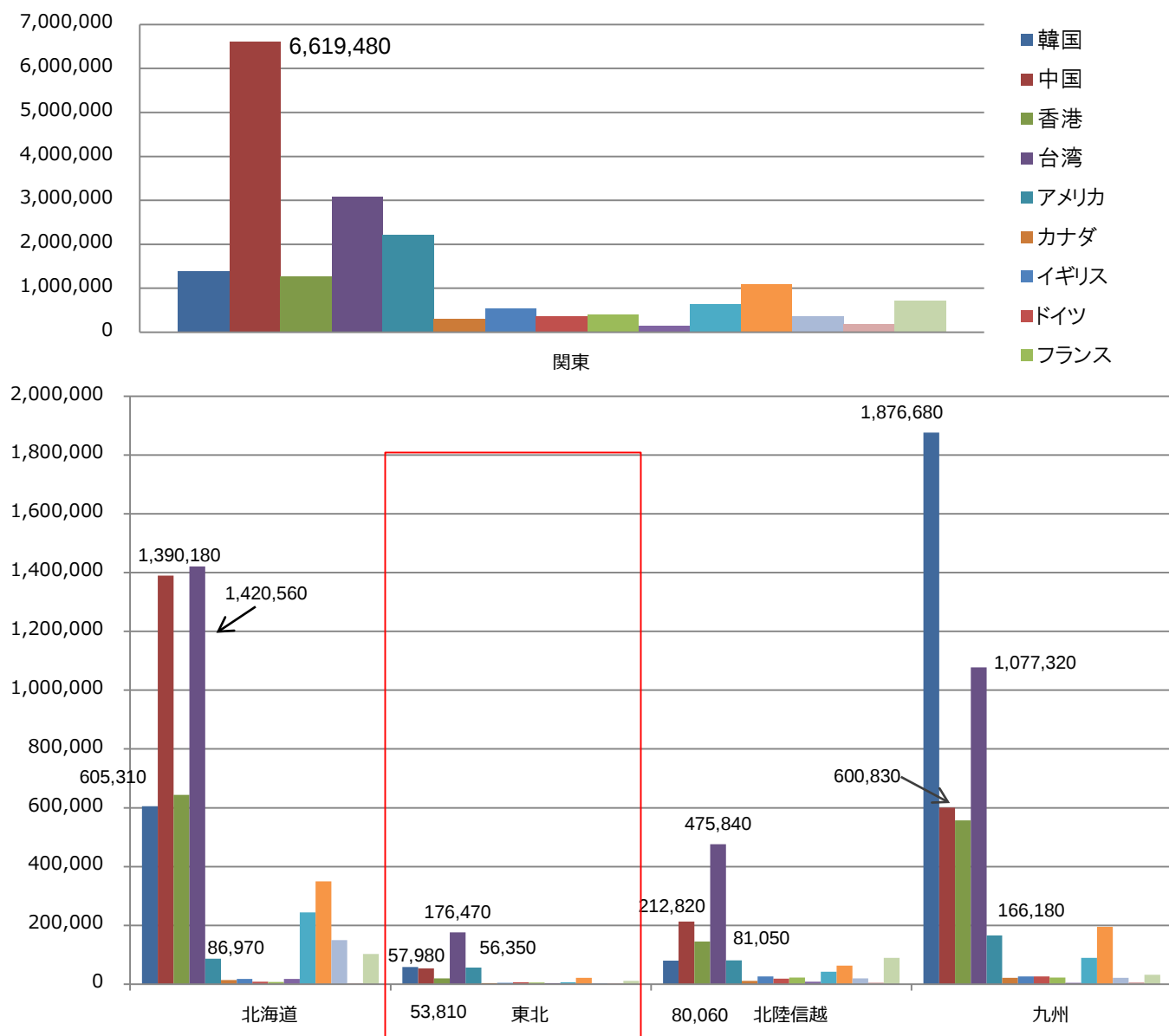
I. インバウンド観光の現状（全国）

1. インバウンド客の動向

⑤外国人宿泊者の国籍

- ・地域別の宿泊者の国籍を見ると、大都市圏および北海道では中国の宿泊者が多い傾向がある。
- ・北海道・北陸信越・東北では台湾の宿泊者が多く、九州は韓国の宿泊者が多い。

平成27年 地域別外国人延べ宿泊者国籍（人）



※ 地方区分の定義（運輸局ベース）

東北（青森・秋田・岩手・宮城・山形・福島）北陸信越（新潟・富山・石川・長野）

*福井は中部に分類 九州（福岡・大分・佐賀・長崎・熊本・宮崎・鹿児島）

※出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」従業員10人以上の施設が対象

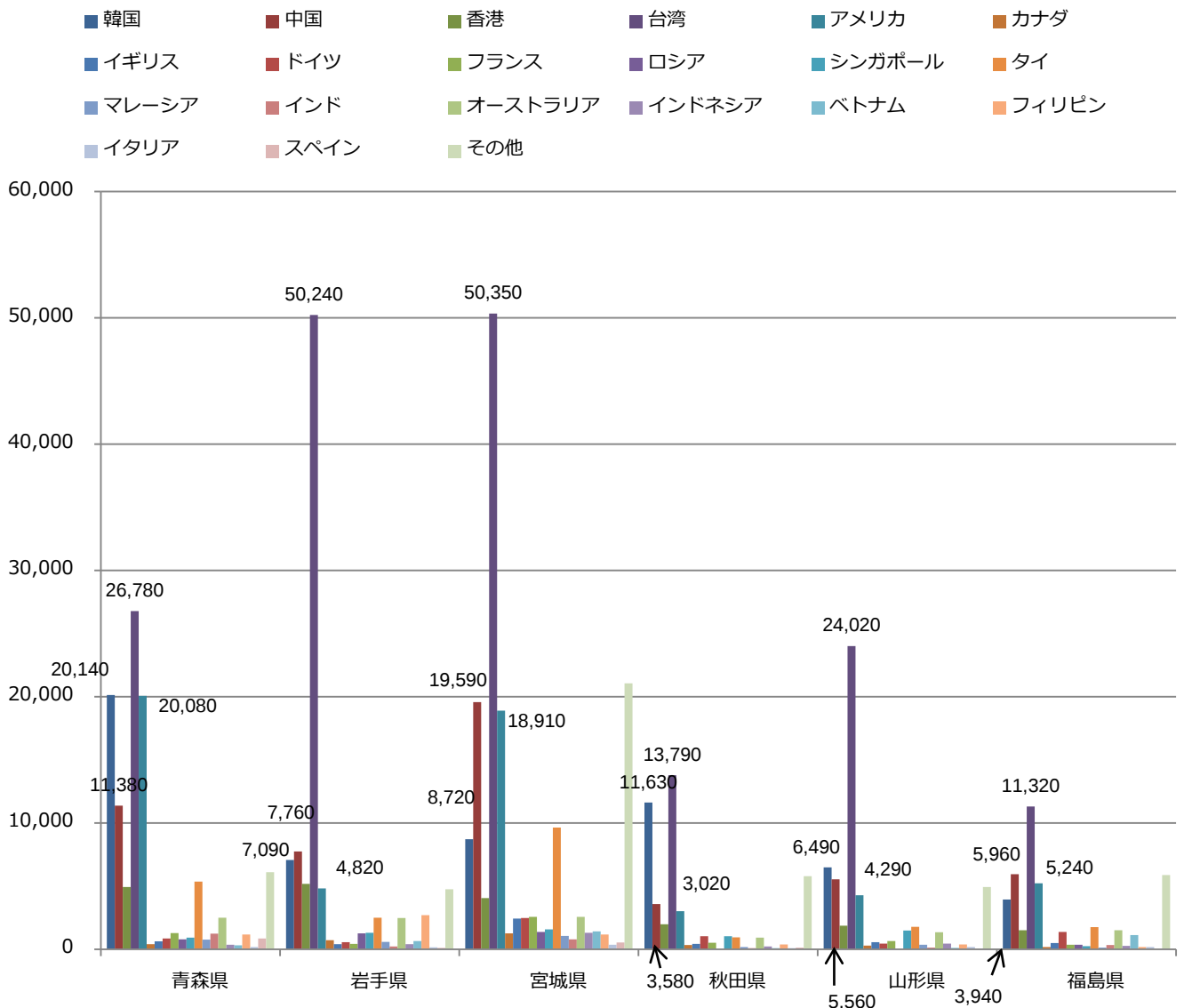
I. インバウンド観光の現状（東北）

2. 東北のインバウンド客の動向

①東北の外国人宿泊者の国籍

・直近の東北6県への宿泊者の国籍をみると、岩手県・宮城県では台湾の比率が高い。また、宮城県では中国・アメリカに加えてタイの、また青森県ではアメリカ・韓国の比率も高い。

東北6県の外国人延べ宿泊者国籍（人）



※出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」
 ※従業員10人以上の施設が対象

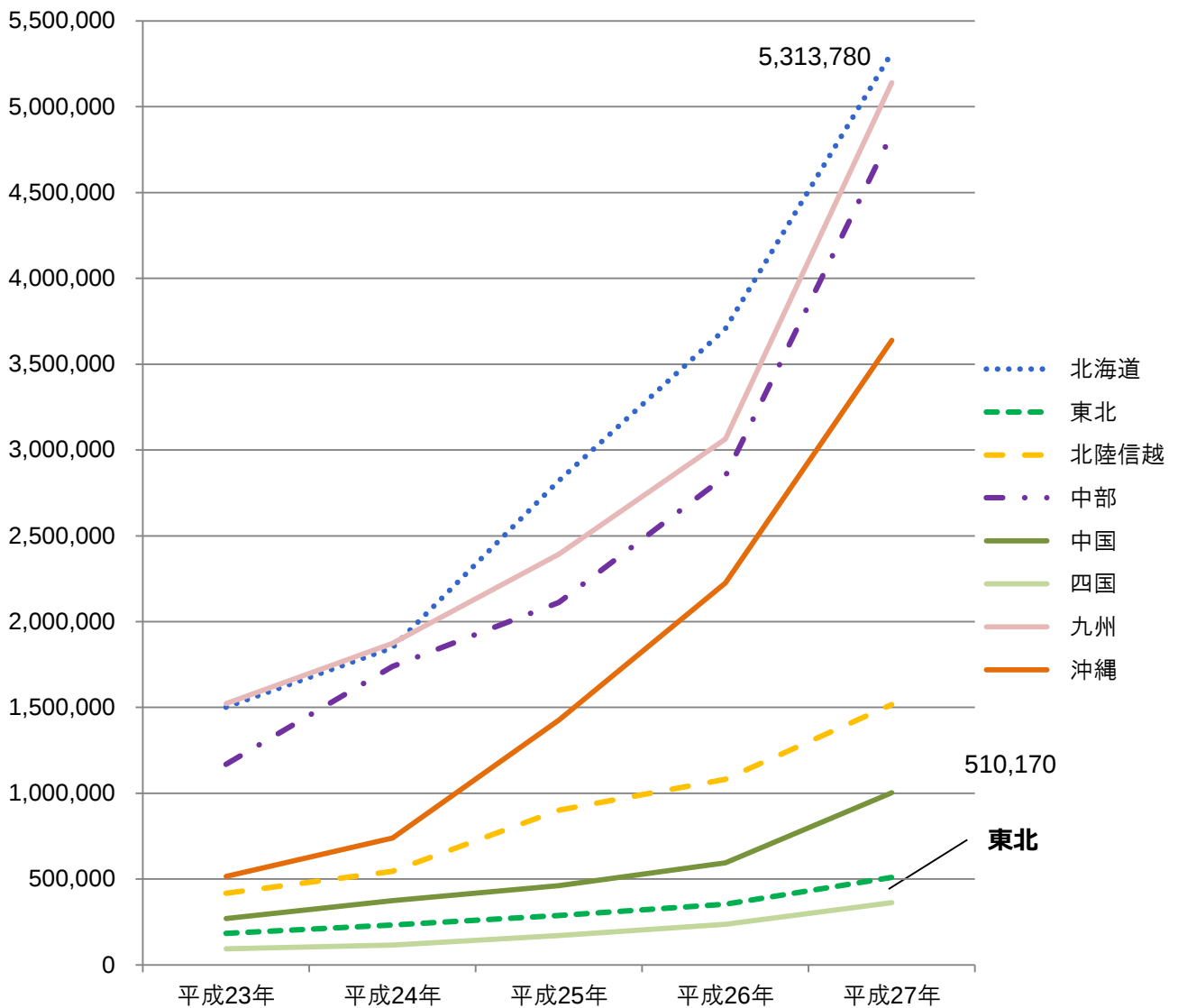
I. インバウンド観光の現状（東北）

2. 東北のインバウンド客の動向

②地域別の外国人延べ宿泊者数推移

・東北および他地域（関東と関西除く）における外国人延べ宿泊者数推移をみると、東北は緩やかに増加しているものの、四国・中国とともに低水準にある。

外国人延べ宿泊者数推移(人)



※出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」
 ※従業員10人以上の施設が対象
 ※運輸局別。福井県は中部に含まれる。

I. インバウンド観光の現状（東北）

2. 東北のインバウンド客の動向

③訪日外国人の訪問率推移

- ・ 訪日外国人の東北への訪問率は全国でみると低水準にある。

訪日外国人の訪問率推移
（地域別・全目的計）

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
北海道	6.9	7.8	7.8	7.8	8.1
東北	2.2	2.6	2.2	2.1	1.7
関東	59.0	59.2	53.7	57.3	57.7
北陸信越	4.1	4.7	5.0	5.2	5.7
中部	12.8	13.9	12.1	14.7	14.9
近畿	33.8	32.6	33.3	35.7	40.0
中国	4.3	4.0	4.0	4.5	4.4
四国	1.0	0.8	1.0	1.2	1.1
九州	12.0	11.0	12.8	10.3	11.1
沖縄	3.1	3.1	3.9	4.7	6.1

訪日外国人の訪問率推移
（東北6県・全目的計）

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
青森県	0.5	0.4	0.5	0.4
岩手県	0.3	0.3	0.3	0.2
宮城県	1.2	1.0	1.0	0.8
秋田県	0.3	0.3	0.3	0.2
山形県	0.3	0.4	0.3	0.2
福島県	0.5	0.4	0.4	0.4

訪日外国人の訪問率推移
（地域別・観光・レジャー目的）

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
北海道	11.7	13.0	12.1	10.7	10.2
東北	1.0	1.4	1.6	1.5	1.2
関東	52.5	53.3	46.1	51.1	51.0
北陸信越	4.4	5.6	6.0	6.1	6.1
中部	13.4	12.9	10.1	14.9	15.9
近畿	39.7	37.2	37.0	41.4	45.8
中国	4.0	3.8	3.4	4.2	4.2
四国	0.8	0.7	0.6	1.2	1.1
九州	14.7	14.3	15.6	12.4	12.3
沖縄	4.4	4.8	5.4	6.5	7.8

訪日外国人の訪問率推移
（東北6県・観光・レジャー目的）

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
青森県	0.4	0.5	0.6	0.4
岩手県	0.3	0.4	0.3	0.2
宮城県	0.7	0.8	0.7	0.6
秋田県	0.3	0.3	0.3	0.2
山形県	0.1	0.3	0.3	0.2
福島県	0.2	0.1	0.2	0.2

※出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」より作成

訪問率：訪日外国人が、どのような目的で、どの都道府県に足を運んだかを集計。全国の空港で調査員が直接、外国人観光客に聞き取りを行って算出した数値で、回答者は地名を10カ所まで書き込むことができる。

平成27年の調査では、全国的計では39,783人、観光レジャー目的では26,068人の外国人観光客が回答。

I. インバウンド観光の現状（東北）

2. 東北のインバウンド客の動向

④訪日外国人の各地域圏内での訪問率

- ・東北を訪れたインバウンド客の5割近くが宮城県を訪問している。青森に関しては観光・レジャー目的での訪問率が高い傾向がある。一方で、福島県は観光・レジャー目的が少なく、それ以外（ビジネス等）の訪問率が高いことが推察される。
- ・他地域においては各地域のHUB空港的役割を担う福岡や東京などへの訪問率が高い傾向。

訪日外国人の各地域圏内での訪問率（地域別・全目的計）

東北	平成27年
青森県	24.8%
岩手県	9.8%
宮城県	46.4%
秋田県	13.0%
山形県	12.4%
福島県	20.7%
九州	平成27年
福岡県	84.6%
佐賀県	4.2%
長崎県	22.7%
熊本県	21.6%
大分県	38.3%
宮崎県	1.6%
鹿児島県	5.3%

関東	平成27年
茨城県	1.5%
栃木県	2.7%
群馬県	0.9%
埼玉県	2.5%
千葉県	76.0%
東京都	88.5%
神奈川県	18.1%
近畿	平成27年
滋賀県	1.5%
京都府	60.0%
大阪府	89.5%
兵庫県	17.3%
奈良県	12.6%
和歌山県	2.7%

訪日外国人の各地域での訪問率（地域別・観光・レジャー目的）

東北	平成27年
青森県	37.2%
岩手県	12.3%
宮城県	50.6%
秋田県	19.2%
山形県	13.8%
福島県	14.2%
九州	平成27年
福岡県	84.1%
佐賀県	3.6%
長崎県	23.6%
熊本県	24.2%
大分県	44.5%
宮崎県	1.3%
鹿児島県	5.1%

関東	平成27年
茨城県	0.6%
栃木県	2.5%
群馬県	0.7%
埼玉県	1.3%
千葉県	79.1%
東京都	94.4%
神奈川県	19.3%
近畿	平成27年
滋賀県	1.0%
京都府	65.5%
大阪府	90.3%
兵庫県	16.8%
奈良県	13.9%
和歌山県	2.9%

※出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」より作成

訪問率：訪日外国人が、どのような目的で、どの都道府県に足を運んだかを集計。全国の空港で調査員が直接、外国人観光客に聞き取りを行って算出した数値で、回答者は地名を10カ所まで書き込むことができる。

平成27年の調査では、全国的計では39,783人、観光レジャー目的では26,068人の外国人観光客が回答。

I. インバウンド観光の現状（東北）

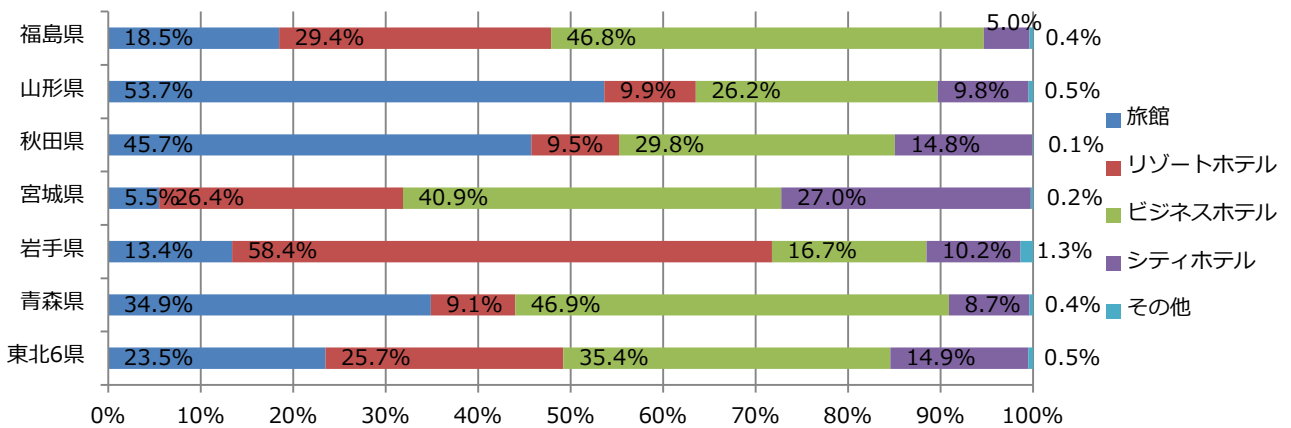
2. 東北のインバウンド客の動向

⑤各県の特徴

・訪日外国人の宿泊先を見ると、**秋田県と山形県では旅館の利用が多い傾向にある。**
岩手県はリゾートホテルを利用する割合が高い。 青森県・宮城県・福島県では**ビジネスホテルの利用が多い。**

・訪日外国人の宿泊目的を見ると、**青森県・岩手県・秋田県・山形県では観光目的の宿泊者が多く、福島県や宮城県では観光目的以外の宿泊者が多い傾向にある。**

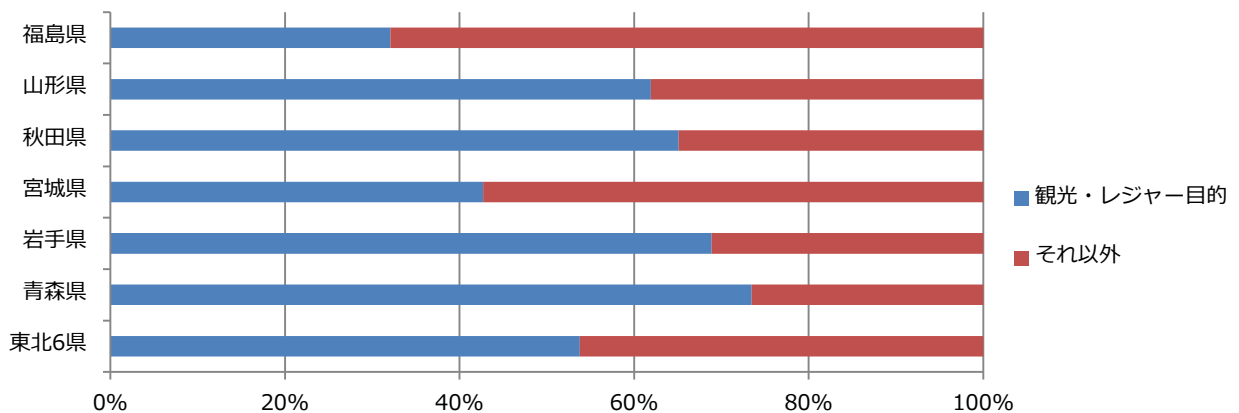
平成27年 訪日外国人の宿泊先



※定義： リゾートホテル...ホテルのうち行楽地や保養地に建てられて主に観光客を対象とするもの
ビジネスホテル...ホテルのうち、主に出張ビジネスマンを対象とするもの
シティホテル...ホテルのうちリゾートホテル、ビジネスホテル以外の都市部に立地するもの
その他...会社・団体の所属員など特定の人を宿泊させる営業のもの

※出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」延べ宿泊者数 平成27年
※従業員10人以上の施設を対象として集計

宿泊目的別に見た訪日外国人の割合



※出典：日本政府観光局「訪日外客数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」を元に
RESASを使用して算出
「それ以外」には商談等その他ビジネス、親族・知人訪問、研修等が含まれる。
地域別の訪日外客数＝訪日外客数×地域別の訪問率を算出することで地域別データを出している

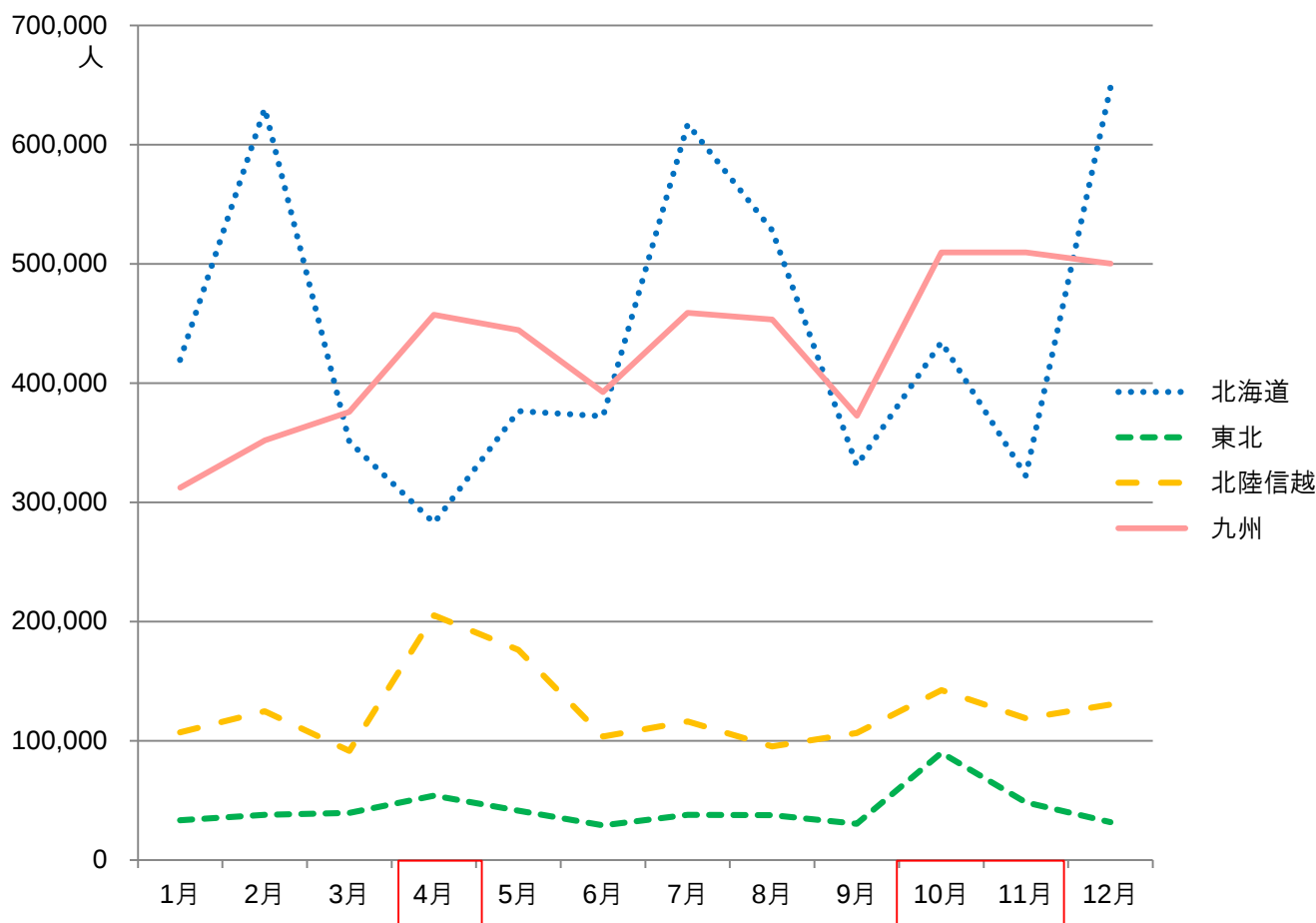
I. インバウンド観光の現状（東北）

2. 東北のインバウンド客の動向

⑥地域別の外国人宿泊者推移（月別延べ宿泊者）

・北海道は雪まつりシーズンと夏、北陸信越は春が多いが、東北では紅葉シーズンの10月～11月や、4月に増加することを除けば、年間を通じて大きな変動がない。

地域ごとの月別外国人延べ宿泊者数推移



※出典：観光庁「平成27年宿泊旅行統計調査」
※従業員10人以上の施設を対象として集計

I. インバウンド観光の現状（参考）

3. 外国人に人気のある観光資源

・ 外国人が行ってみたい観光地イメージは、ショッピングや都市景観よりも温泉や自然景観、日本的な街並み等となっており、**東北のポテンシャルは高い**と言える。

行ってみたい日本の観光地イメージ

1. 温泉



全体				
71% (76%)				
韓国	中国	台湾	香港	
73% (80%)	69% (74%)	75% (79%)	71% (72%)	
タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	
71% (81%)	73% (81%)	73% (76%)	59% (64%)	

2. 桜



全体				
68% (76%)				
韓国	中国	台湾	香港	
32% (44%)	71% (74%)	66% (71%)	70% (73%)	
タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	
75% (79%)	77% (86%)	81% (87%)	76% (82%)	

3. 富士山



全体				
68% (73%)				
韓国	中国	台湾	香港	
45% (50%)	74% (76%)	60% (63%)	64% (65%)	
タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	
72% (78%)	71% (79%)	79% (84%)	76% (84%)	

4. 日本的な街並み



全体				
66% (74%)				
韓国	中国	台湾	香港	
58% (77%)	54% (58%)	75% (80%)	71% (75%)	
タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	
68% (75%)	70% (81%)	70% (77%)	63% (69%)	

5. 雪景色



全体				
59% (65%)				
韓国	中国	台湾	香港	
43% (55%)	46% (49%)	57% (60%)	64% (68%)	
タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	
60% (64%)	66% (74%)	70% (78%)	64% (71%)	

6. 日本旅館



全体				
58% (66%)				
韓国	中国	台湾	香港	
50% (67%)	48% (57%)	60% (62%)	57% (60%)	
タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	
58% (65%)	69% (79%)	64% (72%)	62% (71%)	

7. 新幹線



全体				
55% (61%)				
韓国	中国	台湾	香港	
35% (47%)	36% (41%)	56% (59%)	50% (54%)	
タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	
59% (64%)	65% (72%)	67% (71%)	70% (75%)	

8. 紅葉



全体				
53% (61%)				
韓国	中国	台湾	香港	
13% (18%)	34% (39%)	50% (54%)	64% (68%)	
タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	
62% (71%)	65% (73%)	74% (79%)	65% (74%)	

9. 城



全体				
53% (59%)				
韓国	中国	台湾	香港	
39% (49%)	39% (44%)	57% (60%)	56% (59%)	
タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	
60% (67%)	57% (65%)	65% (72%)	49% (58%)	

10. 日本庭園



全体				
45% (49%)				
韓国	中国	台湾	香港	
38% (48%)	40% (44%)	45% (48%)	36% (38%)	
タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	
44% (49%)	44% (48%)	57% (60%)	57% (62%)	

11. ショッピングモール



全体				
43% (49%)				
韓国	中国	台湾	香港	
33% (48%)	50% (56%)	42% (46%)	54% (58%)	
タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	
37% (43%)	49% (53%)	42% (45%)	37% (38%)	

12. 神社仏閣



全体				
43% (50%)				
韓国	中国	台湾	香港	
24% (35%)	32% (39%)	53% (58%)	43% (45%)	
タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	
58% (66%)	44% (52%)	42% (49%)	48% (52%)	

※出典(株)日本政策投資銀行（公財）日本交通公社「DBJ・JTBFアジア8地域・訪日外国人旅行者の意向調査（平成27年版）」より

Ⅱ. インバウンド客増加による宿泊施設の 受け入れキャパシティ推計

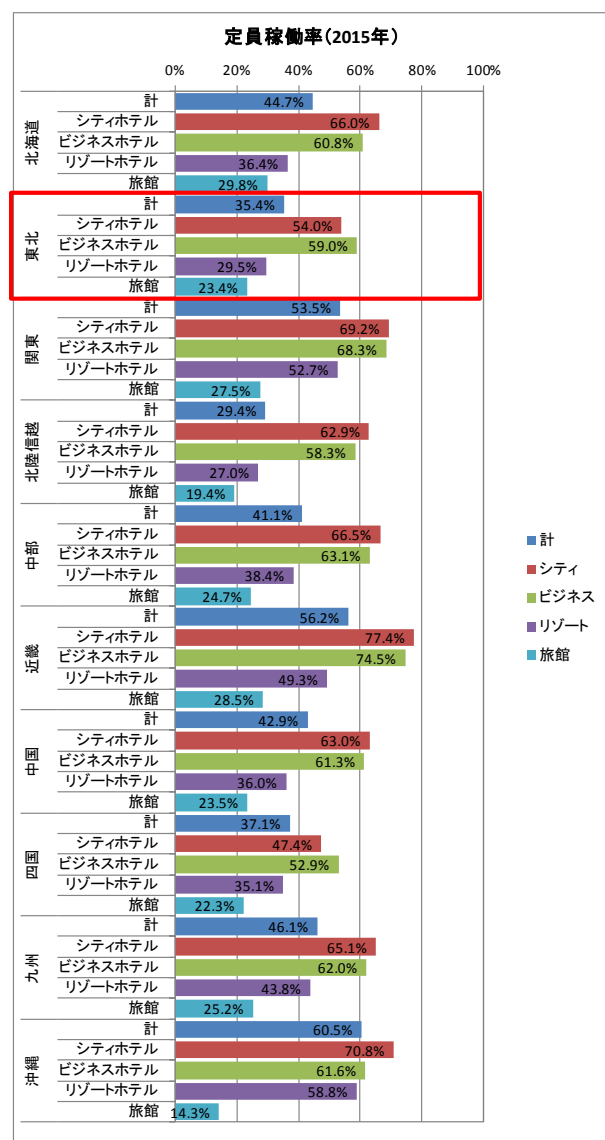
Ⅱ. 【東北の宿泊施設】定員稼働率の現状

2-1. 現状整理

①東北と他地域との比較

- ・東北は、関東・北陸信越・中部に次いで**旅館の収容人数が多い**。一方で、東北の旅館の定員稼働率は、**約23%と低い水準**となっている。
- ・外国人宿泊比率に関しては、北海道と関東を除き**どの地域も旅館の比率は10%に満たない**状態にあるが、中でも東北の旅館の外国人比率は1%程度であり、全国的にみてもかなり低い。

	2015年実績 延宿泊者数(人/年)			定員稼働率	推定収容人数	外国人宿泊比率
	計(A+B)	日本人:A	外国人:B			
北海道運輸局	31,356,340	25,921,930	5,434,410	44.7%	70,149,547	17.3%
シティホテル	6,753,520	5,062,270	1,691,250	66.0%	10,232,606	25.0%
ビジネスホテル	11,758,560	10,773,520	985,040	60.8%	19,339,737	8.4%
リゾートホテル	4,148,790	3,128,260	1,020,530	36.4%	11,397,775	24.6%
旅館	8,695,470	6,957,880	1,737,590	29.8%	29,179,430	20.0%
東北運輸局	39,840,310	39,269,100	571,210	35.4%	112,697,952	1.4%
シティホテル	2,795,760	2,717,610	78,150	54.0%	5,177,333	2.8%
ビジネスホテル	18,177,750	17,960,830	216,920	59.0%	30,809,746	1.2%
リゾートホテル	4,432,040	4,299,280	132,760	29.5%	15,023,864	3.0%
旅館	14,434,760	14,291,380	143,380	23.4%	61,687,009	1.0%
関東運輸局	129,879,930	104,717,160	25,162,770	53.5%	242,581,286	19.4%
シティホテル	29,656,260	18,192,240	11,464,020	69.2%	42,855,867	38.7%
ビジネスホテル	59,839,110	50,173,070	9,666,040	68.3%	87,612,167	16.2%
リゾートホテル	19,978,770	18,145,150	1,833,620	52.7%	37,910,380	9.2%
旅館	20,405,790	18,206,700	2,199,090	27.5%	74,202,873	10.8%
北陸信越運輸局	38,178,290	36,373,200	1,805,090	29.4%	129,827,269	4.7%
シティホテル	2,770,060	2,445,260	324,800	62.9%	4,403,911	11.7%
ビジネスホテル	13,887,530	13,334,210	553,320	58.3%	23,820,806	4.0%
リゾートホテル	6,429,570	5,981,680	447,890	27.0%	23,813,222	7.0%
旅館	15,091,130	14,612,050	479,080	19.4%	77,789,330	3.2%
中部運輸局	55,332,200	50,102,530	5,229,670	41.1%	134,743,838	9.5%
シティホテル	5,691,500	4,109,320	1,582,180	66.5%	8,558,647	27.8%
ビジネスホテル	24,754,240	22,647,190	2,107,050	63.1%	39,230,174	8.5%
リゾートホテル	9,553,950	8,644,500	909,450	38.4%	24,880,078	9.5%
旅館	15,332,510	14,701,520	630,990	24.7%	62,074,939	4.1%
近畿運輸局	70,518,470	55,178,920	15,339,550	56.2%	125,498,438	21.8%
シティホテル	19,577,480	12,043,550	7,533,930	77.4%	25,293,902	38.5%
ビジネスホテル	31,375,380	25,274,860	6,100,520	74.5%	42,114,604	19.4%
リゾートホテル	7,134,230	6,465,130	669,100	49.3%	14,471,055	9.4%
旅館	12,431,380	11,395,380	1,036,000	28.5%	43,618,877	8.3%
中国運輸局	23,343,020	22,254,620	1,088,400	42.9%	54,417,588	4.7%
シティホテル	3,206,970	2,844,620	362,350	63.0%	5,090,429	11.3%
ビジネスホテル	13,161,280	12,710,930	450,350	61.3%	21,470,277	3.4%
リゾートホテル	1,233,800	1,141,570	92,230	36.0%	3,427,222	7.5%
旅館	5,740,970	5,557,500	183,470	23.5%	24,429,660	3.2%
四国運輸局	12,008,220	11,581,180	427,040	37.1%	32,328,100	3.6%
シティホテル	1,454,110	1,382,850	71,260	47.4%	3,067,743	4.9%
ビジネスホテル	6,010,240	5,849,130	161,110	52.9%	11,361,512	2.7%
リゾートホテル	1,514,860	1,440,070	74,790	35.1%	4,315,840	4.9%
旅館	3,029,010	2,909,130	119,880	22.3%	13,583,004	4.0%
九州運輸局	50,893,100	45,488,610	5,404,490	46.1%	110,299,863	10.6%
シティホテル	6,402,440	5,202,990	1,199,450	65.1%	9,834,777	18.7%
ビジネスホテル	27,164,070	25,151,120	2,012,950	62.0%	43,813,016	7.4%
リゾートホテル	7,182,890	5,650,150	1,532,740	43.8%	16,399,292	21.3%
旅館	10,143,700	9,484,350	659,350	25.2%	40,252,778	6.5%
沖縄総合事務局	18,912,370	15,149,410	3,762,960	60.5%	31,265,868	19.9%
シティホテル	2,700,800	2,035,610	665,190	70.8%	3,814,689	24.6%
ビジネスホテル	4,710,380	3,857,290	853,090	61.6%	7,646,721	18.1%
リゾートホテル	11,454,970	9,211,490	2,243,480	58.8%	19,481,241	19.6%
旅館	46,220	45,020	1,200	14.3%	323,217	2.6%



※地域は運輸局管轄ベース(長野県は北陸信越運輸局、福井県は中部運輸局に含まれる)

※出典：観光庁「宿泊旅行統計調査平成27年(2015年)」より作成

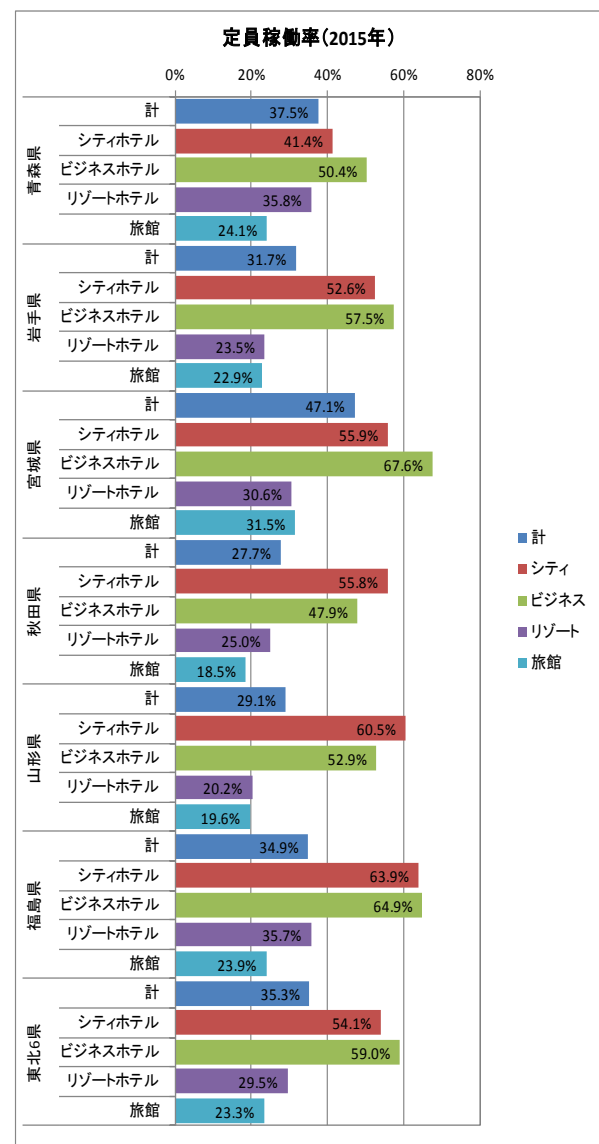
Ⅱ. 【東北の宿泊施設】定員稼働率の現状

2-2. 現状整理

②東北6県における状況

- ・東北6県の中では青森県を除き、施設別収容人数は旅館が最も多く、中でも秋田県・山形県・福島県は収容人数の6割以上を旅館が占めていると推定される。
- ・旅館の定員稼働状況は、秋田県・山形県では2割に届かない水準となっている。
- ・外国人宿泊比率については、県別・施設別にかなりバラつきがみられる。

	2015年実績 延宿泊者数(人/年)			定員 稼働率	推定収容人 数 (人/年)	外国人 宿泊比率
	計(A+B)	日本人:A	外国人:B			
青森県 計	4,741,270	4,628,420	112,850	37.5%	12,628,087	2.4%
シティホテル	326,740	317,350	9,390	41.4%	789,227	2.9%
ビジネスホテル	2,813,690	2,761,150	52,540	50.4%	5,582,718	1.9%
リゾートホテル	284,900	275,010	9,890	35.8%	795,810	3.5%
旅館	1,315,940	1,274,910	41,030	24.1%	5,460,332	3.1%
岩手県 計	5,896,030	5,793,760	102,270	31.7%	18,593,367	1.7%
シティホテル	579,680	569,690	9,990	52.6%	1,102,053	1.7%
ビジネスホテル	2,134,330	2,114,630	19,700	57.5%	3,711,878	0.9%
リゾートホテル	1,039,060	981,880	57,180	23.5%	4,421,532	5.5%
旅館	2,142,960	2,127,560	15,400	22.9%	9,357,904	0.7%
宮城県 計	10,043,110	9,860,530	182,580	47.1%	21,329,484	1.8%
シティホテル	912,470	870,440	42,030	55.9%	1,632,326	4.6%
ビジネスホテル	5,525,090	5,437,430	87,660	67.6%	8,173,210	1.6%
リゾートホテル	832,790	790,710	42,080	30.6%	2,721,536	5.1%
旅館	2,772,760	2,761,950	10,810	31.5%	8,802,413	0.4%
秋田県 計	3,001,400	2,948,720	52,680	27.7%	10,831,348	1.8%
シティホテル	335,510	328,590	6,920	55.8%	601,272	2.1%
ビジネスホテル	1,182,550	1,168,430	14,120	47.9%	2,468,789	1.2%
リゾートホテル	182,700	178,290	4,410	25.0%	730,800	2.4%
旅館	1,300,640	1,273,410	27,230	18.5%	7,030,486	2.1%
山形県 計	5,580,640	5,509,560	71,080	29.1%	19,196,823	1.3%
シティホテル	483,040	475,370	7,670	60.5%	798,413	1.6%
ビジネスホテル	2,358,170	2,339,610	18,560	52.9%	4,457,788	0.8%
リゾートホテル	237,960	232,260	5,700	20.2%	1,178,020	2.4%
旅館	2,501,470	2,462,320	39,150	19.6%	12,762,602	1.6%
福島県 計	10,577,970	10,528,150	49,820	34.9%	30,273,190	0.5%
シティホテル	158,360	156,180	2,180	63.9%	247,825	1.4%
ビジネスホテル	4,163,920	4,139,580	24,340	64.9%	6,415,901	0.6%
リゾートホテル	1,854,670	1,841,180	13,490	35.7%	5,195,154	0.7%
旅館	4,401,020	4,391,210	9,810	23.9%	18,414,310	0.2%
東北6県 合計	39,840,420	39,269,140	571,280	35.3%	112,852,300	1.4%
シティホテル	2,795,800	2,717,620	78,180	54.1%	5,171,116	2.8%
ビジネスホテル	18,177,750	17,960,830	216,920	59.0%	30,810,285	1.2%
リゾートホテル	4,432,080	4,299,330	132,750	29.5%	15,042,852	3.0%
旅館	14,434,790	14,291,360	143,430	23.3%	61,828,047	1.0%



※県別データは観光庁集計。(前頁の運輸局ベースの数値の相違があるが
端数処理に伴うものである)

※出典：観光庁「宿泊旅行統計調査平成27年(2015年)」より作成

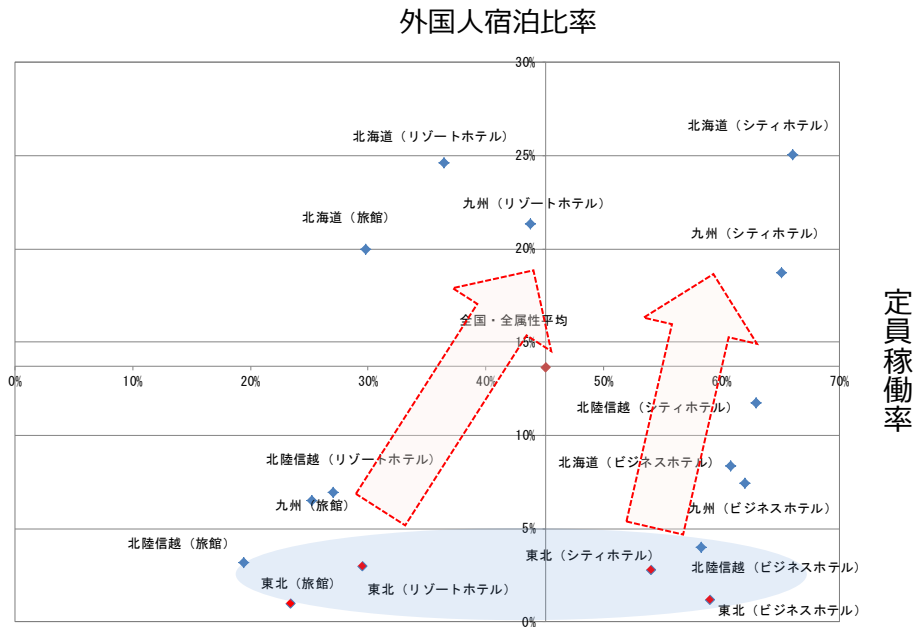
Ⅱ. 【東北の宿泊施設】定員稼働率の現状

2-3. 現状整理

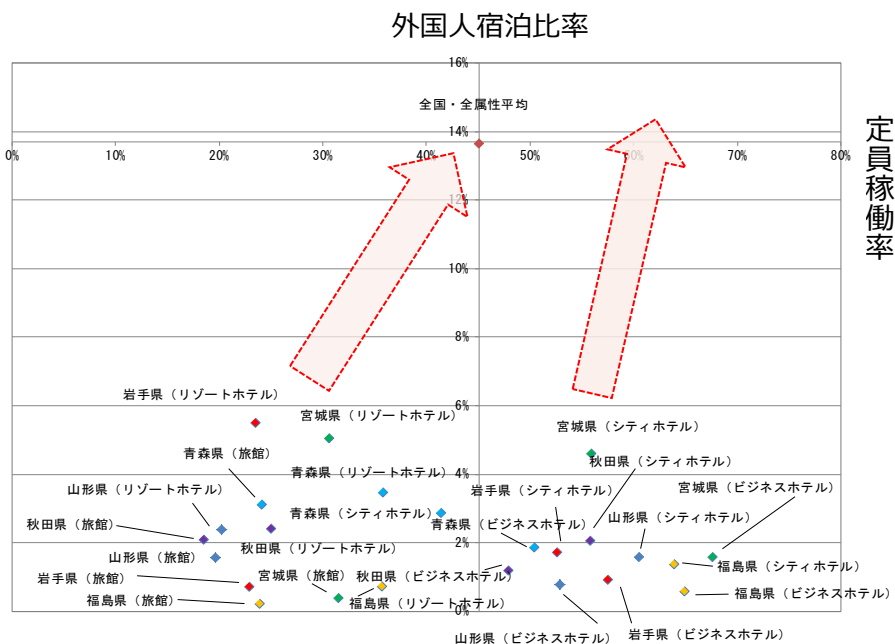
③外国人宿泊比率と定員稼働率のプロット図

- ・東北は全体的に外国人宿泊比率が低い。
- ・特に旅館においては外国人宿泊比率、定員稼働率ともに低いため、外国人宿泊比率を増やしていくことが今後の成長戦略のひとつと考えられる。

各地方・宿泊施設別プロット図



東北6県・宿泊施設別プロット図



Ⅱ. 【東北の宿泊施設】定員稼働率のシミュレーション

3-1. 東北における定員稼働率シミュレーション

①シミュレーション手順

STEP1 『東北における延べ宿泊者数』を推計

・東北における「外国人訪問率（2015年実績1.7%）」が4.0%まで上昇し、かつ6泊した場合の「東北における延べ宿泊者数を推計」

$$(\text{式}) \quad 3,000\text{万人} \times 4.0\% \times 6 (\text{泊}) = 7,200,000 (\text{人泊})$$

2015年実績の
約12倍

観光庁の「訪日外国人消費動向調査2015」によれば、「4～6日間」滞在すると回答した訪日外国人の割合が全体の51.0%と最も多いため、ここでは将来的に東北圏内で6泊することを想定する。

*訪日外国人観光客数を、2015年実績の約1.5倍の3,000万人と2020年政府目標の4,000万人の2パターンとした（以下は3,000万人のケース）。

STEP2 2015年実績の約12倍という倍率を用いて、東北各県での外国人延べ宿泊者数を推計し、『定員稼働率』を算出

- ・以下を条件とする
- ・宿泊施設の収容人数は2015年値で固定
- ・日本人宿泊客は2015年の実績で固定、外国人宿泊客が増加した際（ここでは約12倍）の宿泊施設の稼働状況をシミュレーション
- ・各県、施設における宿泊者数の構成は2015年実績の構成とし、一律に外国人宿泊客が増加するものとして計算

・東北6県定員稼働率 シミュレーション

$$(\text{式}) \quad \{39,269\text{千人} (\text{日本人}) + 6,951\text{千人} (\text{外国人})\} \div 112,852\text{千人} (\text{東北6県の収容人数}) = 41.0\%$$

シミュレーション結果 東北6県 （訪日外国人旅行者数 3,000万人のケース）

	定員稼働率の状況	
	2015実績	推計値
6県計	35.3%	41.0%
シティ	54.1%	70.9%
ビジネス	59.0%	66.9%
リゾート	29.5%	39.3%
旅館	23.3%	25.9%

凡例
65%超
55%～65%
45%～55%
35%～45%
25%～35%
25%以下

外国人宿泊者数が現状の約12倍に増加した場合、稼働率は41.0%と、全国平均稼働率45.1%に近づく。
東北の主要な宿泊施設である旅館の稼働率は25.9%と低いことから、十分なキャパシティが確保されと考えられる。

※出典：JNTO「国籍/月別 訪日外客数（2003年～2015年）」
観光庁「訪日外国人消費動向調査2015」
観光庁「宿泊旅行統計調査平成27年（2015年）」より作成

Ⅱ. 【東北の宿泊施設】定員稼働率のシミュレーション

3-2. 東北における定員稼働率シミュレーション

シミュレーション結果 東北各県（訪日外国人旅行者数 3,000万人のケース）

- ・各県別に定員稼働率の推計値を算出すると、一部の地域においてシティホテルやビジネスホテルでは70%を超えるものの、各県別にみても旅館の稼働率は依然低い。
- ・したがって、将来的に外国人が平均して**6泊**し、外国人延べ宿泊者数が**約12倍に増加したとしても**、東北の宿泊施設の受け入れキャパシティは十分に確保されていることが分かる。

	定員稼働率の状況	
	2015実績	推計値
青森県計	37.5%	47.5%
シティ	41.4%	54.7%
ビジネス	50.4%	60.9%
リゾート	35.8%	49.7%
旅館	24.1%	32.5%
岩手県計	31.7%	37.9%
シティ	52.6%	62.7%
ビジネス	57.5%	63.4%
リゾート	23.5%	37.9%
旅館	22.9%	24.7%
宮城県計	47.1%	56.6%
シティ	55.9%	84.7%
ビジネス	67.6%	79.6%
リゾート	30.6%	47.9%
旅館	31.5%	32.9%
秋田県計	27.7%	33.1%
シティ	55.8%	68.7%
ビジネス	47.9%	54.3%
リゾート	25.0%	31.7%
旅館	18.5%	22.8%
山形県計	29.1%	33.2%
シティ	60.5%	71.2%
ビジネス	52.9%	57.5%
リゾート	20.2%	25.6%
旅館	19.6%	23.0%
福島県計	34.9%	36.8%
シティ	63.9%	73.7%
ビジネス	64.9%	69.1%
リゾート	35.7%	38.6%
旅館	23.9%	24.5%
6県計	35.3%	41.0%
シティ	54.1%	70.9%
ビジネス	59.0%	66.9%
リゾート	29.5%	39.3%
旅館	23.3%	25.9%

凡例

65%超

55%～65%

45%～55%

35%～45%

25%～35%

25%以下

※出典：JNTO「国籍/月別 訪日外客数（2003年～2015年）」
観光庁「訪日外国人消費動向調査2015」
観光庁「宿泊旅行統計調査平成26年（2015年）」より作成

Ⅱ. 【東北の宿泊施設】定員稼働率のシミュレーション

3-3. 東北における定員稼働率シミュレーション

シミュレーション結果 （訪日外国人旅行者数 4,000万人のケース）

・ 政府が設定した**2020年までの訪日外国人旅行者の目標数4,000万人**を同シミュレーションに当てはめた結果が以下の通りである。

・ この場合、外国人延べ宿泊者数が2015年実績の**約16倍に増加し**、全県においてシティホテルもしくはビジネスホテルでの稼働率が上昇する。しかしながら、旅館の稼働率は最大でも**青森県の35.5%**であり、6県計平均では26.9%と、受け入れキャパシティは確保されている。

	定員稼働率の状況	
	2015実績	推計値
青森県計	37.5%	51.1%
シティ	41.4%	59.5%
ビジネス	50.4%	64.7%
リゾート	35.8%	54.7%
旅館	24.1%	35.5%
岩手県計	31.7%	40.1%
シティ	52.6%	66.4%
ビジネス	57.5%	65.6%
リゾート	23.5%	43.2%
旅館	22.9%	25.4%
宮城県計	47.1%	60.1%
シティ	55.9%	95.1%
ビジネス	67.6%	83.9%
リゾート	30.6%	54.1%
旅館	31.5%	33.4%
秋田県計	27.7%	35.1%
シティ	55.8%	73.3%
ビジネス	47.9%	56.6%
リゾート	25.0%	34.2%
旅館	18.5%	24.4%
山形県計	29.1%	34.7%
シティ	60.5%	75.1%
ビジネス	52.9%	59.2%
リゾート	20.2%	27.6%
旅館	19.6%	24.3%
福島県計	34.9%	37.4%
シティ	63.9%	77.3%
ビジネス	64.9%	70.7%
リゾート	35.7%	39.7%
旅館	23.9%	24.7%
6県計	35.3%	43.0%
シティ	54.1%	77.1%
ビジネス	59.0%	69.7%
リゾート	29.5%	42.9%
旅館	23.3%	26.9%

凡例

65%超

55%～65%

45%～55%

35%～45%

25%～35%

25%以下

※出典：JNTO「国籍/月別 訪日外客数（2003年～2015年）」
観光庁「訪日外国人消費動向調査2015」
観光庁「宿泊旅行統計調査平成26年（2015年）」より作成

Ⅲ. 宿泊施設の生の声と現状

Ⅲ．宿泊施設の生の声と課題

1-1. 宿泊施設のハード・ソフト面における対応の可能性

東北における「国際観光ホテル整備法（※1）登録ホテル・旅館（※2）（全271施設）」の中から、インバウンド受入れへの取り組みの大前提と考えられる、以下の2点を満たす施設を抽出する。

① ホームページの多言語化対応

② 無料Wi-Fi環境の整備

（※1）国は、訪日外国人旅行者が安心して宿泊できる施設として、一定のサービスレベルが保証されたホテル・旅館を登録

（※2）各施設のHPおよびじゃらんHPにて検索。全館対応だけでなくロビー対応等も含める。

・上記の2つを満たす施設は、対象の全271施設のうち67施設に留まっている。これは**全体の25%**であり、東北の宿泊施設は、現状として**量的には余裕があるものの、質的特にハード面の対応が整備されているとは言い難い。**

東北の国際観光ホテル整備法 登録ホテル・旅館のうち、
HPの多言語対応、Wi-Fi対応の割合

		登録施設数	①言語対応	②WiFi対応	①②両対応	割合
青森	ホテル	17	8	9	6	35%
	旅館	7	2	3	2	29%
岩手	ホテル	15	9	8	7	47%
	旅館	21	10	14	7	33%
宮城	ホテル	17	9	13	8	47%
	旅館	30	11	13	7	23%
秋田	ホテル	14	7	12	6	43%
	旅館	16	4	3	1	6%
山形	ホテル	13	7	7	6	46%
	旅館	51	14	26	11	22%
福島	ホテル	14	5	11	4	29%
	旅館	56	7	15	2	4%
全体		271	93	134	67	25%

出典：各施設サイトおよびじゃらんHP

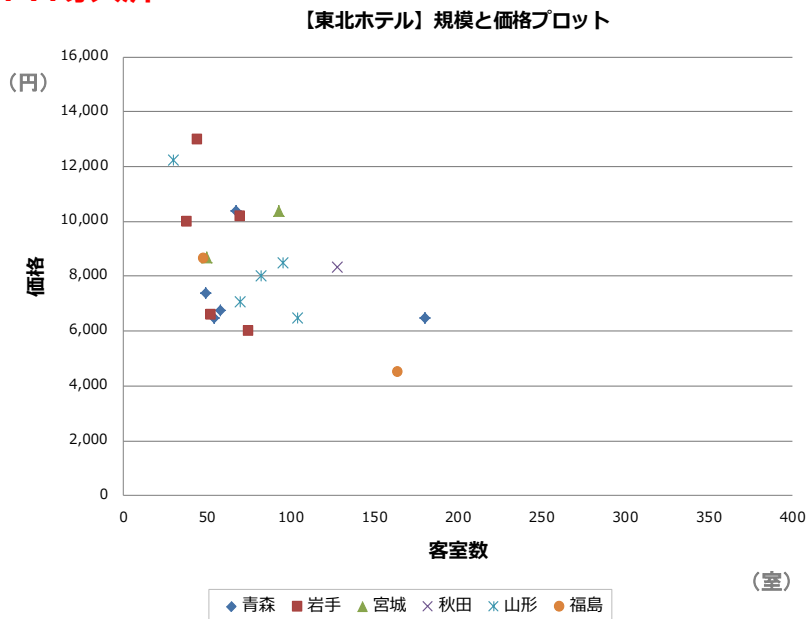
Ⅲ. 宿泊施設の生の声と課題

(参考) 「インバウンド向けハード整備状況」と「規模・価格」の動向

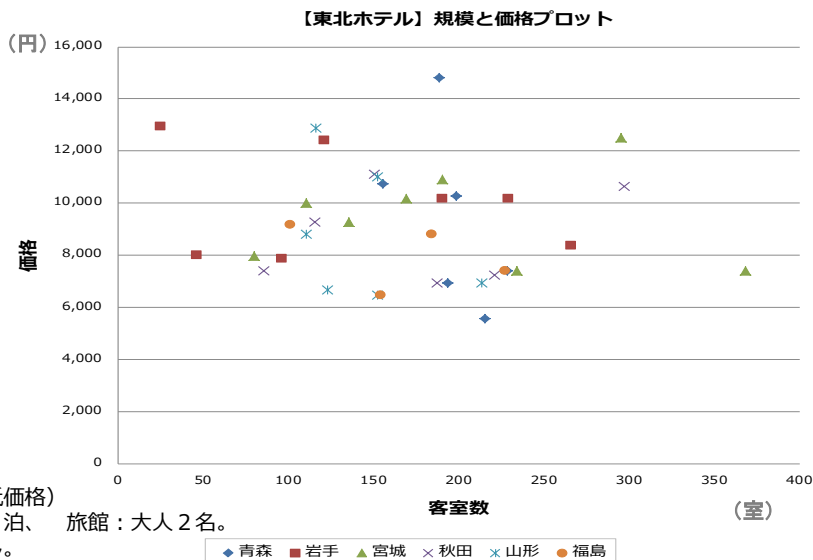
・【東北ホテル】HP多言語・Wi-Fi導入済および両者共に未導入のホテルについて、規模と価格でプロットすると以下の通りとなる。比較的**規模の小さい(200室数以下)ホテルでは未導入の傾向**にある。一方、**価格に関しては顕著な違いは見られない**。

ホテルの規模と価格※

HP多言語・Wi-Fi導入済



HP多言語・Wi-Fiともに未導入



※価格はじゃらん検索(最低価格)
ホテル: 大人2名。ツイン1泊、旅館: 大人2名。
1泊2食付。日付条件なし。

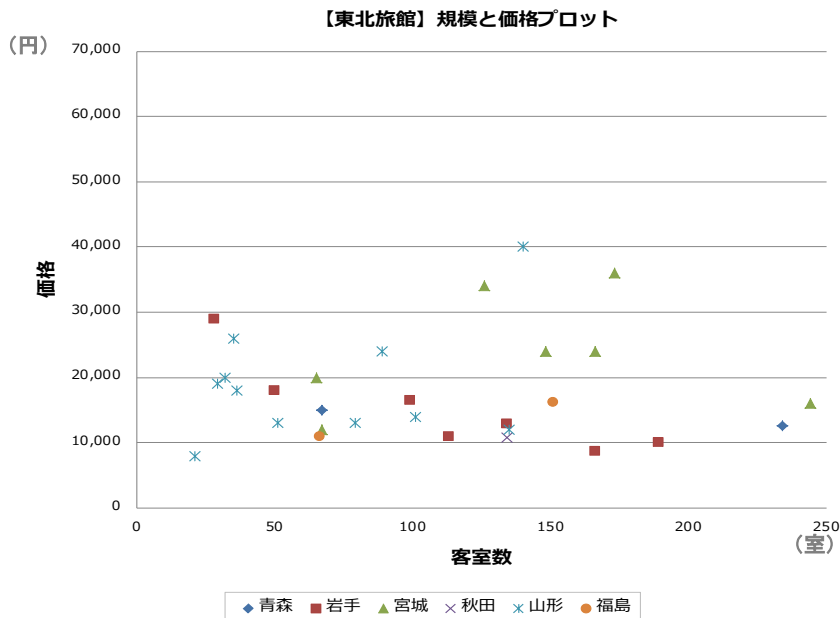
Ⅲ. 宿泊施設の生の声と課題

(参考) 「インバウンド向けハード整備状況」と「規模・価格」の動向

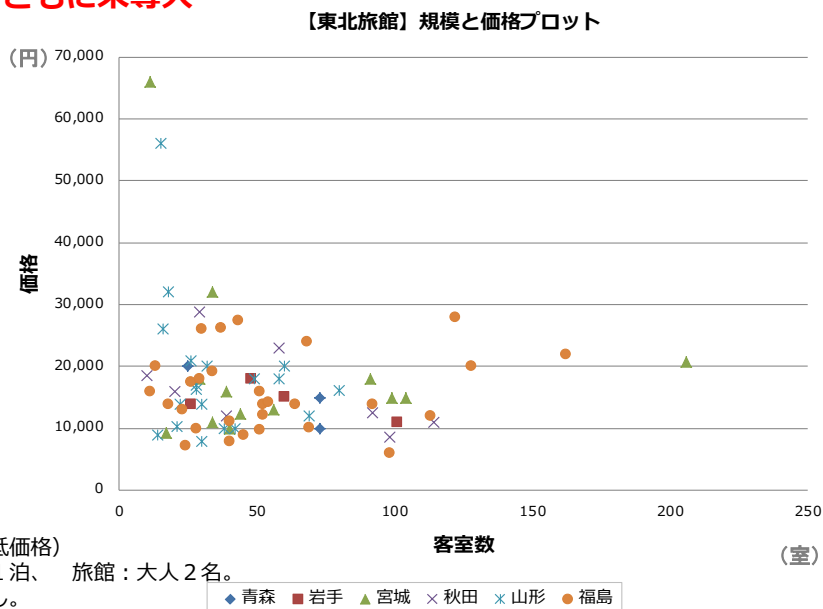
・【東北旅館】HP多言語・Wi-Fi導入済、およびその両者共に未導入の旅館について、規模と価格でプロットすると以下の通りとなる。**両者未導入の旅館は殆どが100室以下となっている。一方で、価格に関してはホテル同様に顕著な違いは見られない。**

旅館の規模と価格※

HP多言語・Wi-Fi導入済



HP多言語・Wi-Fiともに未導入



※価格はじゃらん検索（最低価格）

ホテル：大人2名。ツイン1泊、旅館：大人2名。

1泊2食付。日付条件なし。

Ⅲ. 宿泊施設の生の声と現状

1-2. 宿泊施設のハード面における対応の現状

東北における宿泊施設等のヒアリングで聞いた生の声（一部抜粋）

	ハード面の対応
客室	➤ インバウンド受け入れにはセキュリティ面でも課題がある。客室番号付きの鍵、フロントで部屋番号を読み上げるような事はありません。【東北・旅館】 ➤ 部屋とベッドのサイズは日本人仕様で、クイーン・キングサイズのベッドを求める外国人もいる。【東北・ホテル】
Wi-Fi	➤ 室数の少ない施設では、Wi-Fi整備よりWi-MAXを購入する方が安く有効。【東北・旅館】 ➤ インバウンド観光客からの要望としてWi-Fi整備が挙げられることが多い。【東北・ホテル】 ➤ Wi-Fi整備の補助を行っているが、浸透しておらず予算が残っている。【東北・自治体】 ➤ Wi-Fi整備の一部補助を行っている。「つながるエリア」「つながらないエリア」を把握していく必要がある。【東北・自治体】
案内表示	➤ インバウンド客が宿泊する際は、外国語のウェルカムボードを設置。館内案内パンフレットを日・英・韓・繁・簡に加えタイ語でも作成。【東北・旅館】

Ⅲ. 宿泊施設の生の声と現状

1-3. 宿泊施設のソフト面における対応の現状

東北における宿泊施設のヒアリングで聞いた生の声（一部抜粋）

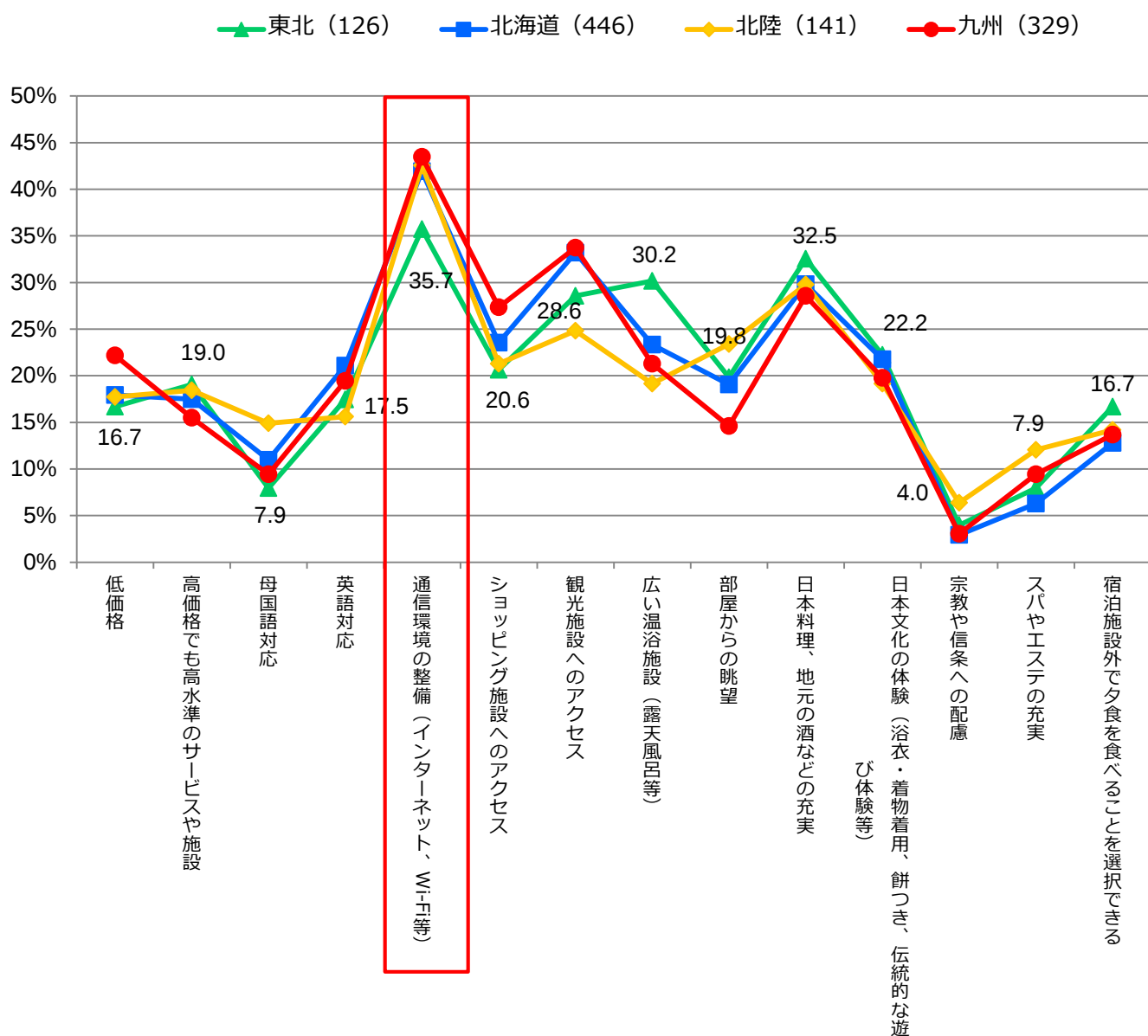
	ソフト面の対応
食事	➤ 外国人には日本らしい食事（舟盛り、氷やぐら等）が評価される。自分で焼く等、一手間かける食事も人気。粘つくもの・生もの・匂いは苦手。台湾人には牛肉を好まない人もいる。【東北・旅館】 ➤ 常温水の提供、夏の鍋料理、フルーツの取り揃え等、インバウンド客を意識した食材調達やサービス対応が必要。【東北・旅館】 ➤ 一泊二食スタイルは受け入れられ難く、泊食分離を考えていく。【東北・旅館】
スタッフ・言語	➤ 英語は標準言語として対応可能。【東北・ホテル】 ➤ 台湾人スタッフが予約担当に勤務しており、エージェントとのやり取りや接客を対応している。言葉が通じる安心感は大きい様子。外国人スタッフ以外にも英語を話せるスタッフがあり、他の言語はタブレット端末で対応（ホテルは聞かれる事が決まっており、ある程度対応可能）。仲居さんは宴会で鍛えられ度胸がある。YES・NO・OKで接客している。少し不便・不慣れなところも良さとして評価されている様子。【東北・旅館】 ➤ 外国人は流ちょうな英語は期待してない。片言の英語で最低限度の会話が出来れば良いと考えている。【東北・旅館】
その他	➤ ネット経由の予約は、キャンセル料の徴収方法も検討課題。【東北・旅館】 ➤ 荷物預かりの仕組み等も考えていかななくてはならない。【東北・旅館】

Ⅲ. 宿泊施設の生の声と現状

1－4. 宿泊施設の現状

・ 地方訪問経験者が宿泊施設に求めることとして、多くの人が**通信環境の整備（インターネット、Wi-Fi等）**を選択。その他には、広い温浴施設や日本料理、地元の酒などの充実を求める声があがった。

地方訪問経験者が宿泊施設に求めること



※出典:(株)日本政策投資銀行東北支店「2015 東北インバウンド（アジア8地域）意向調査」より
グラフ（）内は回答者数

Ⅲ. 宿泊施設の生の声と現状

1－5. 宿泊施設のインバウンドに対する取り組みの現状

東北における宿泊施設のヒアリングで聞いた生の声（一部抜粋）

	取り組みの現状
積極的な意見	➤ 免税店の申請を準備中。チェックアウト時の混雑が予想されている。【東北・旅館】 ➤ 免税店の申請は済ませ、今期から稼働予定。一方で専用レジ設置費用がかかり、今の客数では採算が合わないことが課題。【東北・旅館】 ➤ 地域を挙げてのチャーター歓送迎の対応や、インバウンド客を意識した食材調達、サービス対応を行っている。【東北・旅館】
慎重な意見	➤ 今来ている日本人に満足してもらいたい。インバウンドをターゲットとするのはオリンピックよりも先。日本人の需要があるうちは日本人で商売したい。インバウンドでも旅慣れた方ならOK。団体のインバウンドには慎重な対応が求められる。【東北・旅館】 ➤ ハラールに対する問い合わせもあるが、対応できてはいない。専用キッチン等が必要なため現状の客数では採算が合わない。将来的には祈祷所を設けるといったことも考えられるが、今の外国人訪問状況で設置する段階ではない。【東北・ホテル】 ➤ 東北にもインバウンドの波が来るとは思うが、積極的に行くつもりはない。アジアを追いかけてすぎると、体力勝負になってしまうし、当施設の客層とミスマッチも生じる。【東北・旅館】 ➤ 現状のインバウンド客はほぼゼロの状態。日本人の団体客で埋めているため、特にインバウンドに取り組まなければならない状況下にはない。【東北・旅館】 ➤ 将来的にはインバウンドの取り組みは不可欠であるが、周辺施設も含めた需給バランスをみながら展開していく。【東北・旅館】



Wi-Fi等通信設備やニーズに合わせた食事等への対応が求められる一方、
東北のインバウンド客が少ない現状において
過度な設備投資は出来ないため、日本人客重視にならざるを得ない宿泊施設も存在…

IV. 東北の宿泊施設の成長に向けた検討

東北の宿泊施設の成長に向けて

【調査結果のポイント】

【インバウンド観光の現状】

東北はインバウンド客が少ない地域で、宿泊施設も**日本人客重視の傾向が強い**

- 各地域ごとに訪日外国人の国籍や利用される宿泊施設に特徴があり、**各地域で互いの弱みを補完できる可能性**が存在する
- 東北は外国人の関心の高い観光資源(温泉・日本風景・雪・桜等)を有しており、**ポテンシャルは高い**(一方、全国にも存在)
- 東北圏内で**連携**をしながら、地域間競争(全国でインバウンドの取り合い)をどのように勝ち抜くか、どのように呼び込むか

【インバウンド客増加による宿泊施設の受け入れキャパシティ推計】

- 東北は旅館の収容人数が多い地域で、主要な宿泊施設である旅館の**定員稼働率は23%台と低い水準**
- 一部のビジネスホテルやシティホテルでは比較的高い稼働状況となっているものの、外国人宿泊者数が現状の約12倍に増加したシミュレーションにおいても、東北全体(6県計・施設計)でみると**4割程度の稼働状況にとどまる**
- 宿泊客に占める外国人比率は現状では多くても数%程度である(おのずと日本人客重視の傾向が強くなる)

【宿泊施設の生の声と課題】

- 国際観光ホテル整備法*に基づき登録された宿泊施設(ホテル・旅館)は、東北で271件。その中で、**Wi-Fi、ホームページ多言語に対応している宿泊施設は全体の4分の1程度と遅れている**。
- **Wi-Fiや言語等の整備に関して関心がある施設は多く、食事等のきめ細やかなサービスで対応する施設が存在する一方で、現状の東北における外国人訪問状況を考えると、積極的にはなれない**という課題が存在する。

東北のこれから

*国は、訪日外国人旅行者が安心して宿泊できる施設として、一定のサービスレベルが保証されたホテル・旅館を登録

【宿泊施設の成長に向けて】

- ① 自社の取り組み方針を検討
- ② 顧客の嗜好に合ったサービス・工夫を実施
- ③ 他の宿泊施設・地域と連携

東北の宿泊施設の成長に向けて

Core
competence

①自社の取り組み方針を検討

各施設で理念・ビジョン・強みを再確認し、インバウンドに取り組む場合に、どのような顧客層に、どのようなサービスを提供していくかを検討する

- 当館の提供するサービスは、既存の顧客層は、施設規模は、価格帯は
- インバウンドは、団体・個人のどちらをメインとするか
- 個人メインであれば、知名度（ブランド名）がFITに安心感をもたらす⇒チェーン・大手ホテルグループと連携も視野に

『地域を超えた、宿to宿の東北流おもてなし』

Customer
service

②顧客の嗜好に合ったサービス・工夫を実施

外国人にとって東北は日帰りも当たり前の中で、東北に宿泊してもらうための、ソフト面・ハード面における外国人の嗜好に合ったサービス・工夫を実施することが必要

- インバウンド比率が低い段階では、ソフト対応（食事・サービスなど）を中心に検討
- インバウンド客に不慣れなところも東北の魅力。在籍スタッフには基本的な言語研修を
- Wi-Fi、サインなど基本対応以外のハード整備は、インバウンド客の動向をみながら検討（日本旅館を体験してもらう）

Combination

③他の宿泊施設と連携

インバウンド対応に積極的な他の宿泊施設と連携することで、東北滞在の魅力を高める（組み合わせで滞在期間中に変化を）

- 旅館同士の組み合わせだけでなく、旅館とホテル、会席料理とビュッフェスタイル等の変化を付けた組み合わせ
- 競争相手との連携（協調）により、各施設のサービス水準を共に高める
- 宿泊施設連携からルート開発、チャーター便誘致へ

①自社の取り組み方針を検討

- ▶ 各宿泊施設が理念・ビジョン・強みを再確認し、インバウンドに取り組む場合に、どのような顧客層に、どのようなサービスを提供していくのか、**自社の取り組み方針を明確にする**
 - 当館の提供しているサービスは、既存の顧客層は、施設規模は、価格帯は？
 - インバウンド客に対応する場合は、団体客・個人客のどちらをメインとした事業展開とするか
 - 個人客をターゲットとする場合は、**知名度(ブランド力)を高め安心感・信頼感をもたすことも重要**で、ホテルチェーン・大手ホテルグループとの連携も視野に入れた検討も有効

【インバウンド客への取り組み方針に関する生の声（一部再掲）】

インバウンドに慎重な施設	インバウンドに積極的な宿泊施設	
	個人客中心の施設	団体客中心の施設
▶ 今来ている日本人に満足してもらいたい。インバウンドをターゲットとするのはオリンピックよりも先。日本人の需要があるうちは日本人で商売したい。インバウンドでも旅慣れた方ならOK。団体のインバウンドには慎重な対応が求められる。【東北・旅館】 ▶ インバウンドの波が来るとは思うが、積極的にいくつもりはない。価格帯が当館に合わない。アジアを追いかけすぎると体力勝負になってしまうし、客層とミスマッチも生じる。欧米客誘致を勧めたい。団体は価格勝負なので、FITを狙っていく。【東北・旅館】 ▶ メインは国内客なのでインバウンド比率は10%、多くても12%程度まで。超えるようであれば姉妹館の紹介などで対応する。【北陸・旅館】	▶ 価格で線引きすることで、個人客かつ所得の高い層を取り込んでいくことにした。個人客をターゲットにし、言葉や文化の違いを含め、日本人客もスタッフも、インバウンド客に慣れていく必要がある。【九州・ホテル】 ▶ 団体は一部の大型店では積極的に受けているが、基本的には個人客がメイン。インバウンド客取り込みは、業界でもネット販売にいち早く取り組んだことが大きい。【全国・ホテル】	▶ 台湾は団体が多く、香港はFIT比率が高い。中国は最近では個人客も増えて来ている。全体で個人3割、団体6割。10年前はクレームになるためインバウンド比率は20%におさえていた。国内客が減り、上限を設定する状況ではなくなった。【北海道・旅館】 ▶ インバウンド対応のきっかけは、近隣空港のチャーター便が就航したこと。それ以降地域を挙げてのチャーター歓送迎の対応や、インバウンド客を意識した食材調達、サービス対応を行っている。【東北・旅館】 ▶ インバウンド客の9割は団体（バス利用）で個人客は1割程度。現在のインバウンド比率は7～8%程度。10%（3万人）を目指している。【東北・旅館】

【ホテルチェーン・大手グループとの連携に関するヒアリングコメント（抜粋）】

- ▶ ホテルの「名前（ブランド力）」は重要。アメリカでは、90数%がチェーンに入っている。仮に立派なホテルが駅前にあっても、どんなホテルか外国人には分からない。チェーン店の名前があると安心感がある。「名前」はとても大切。【全国・ホテル】
- ▶ グループで連携しインバウンドに取り組んでいる。【九州・ホテル】

②顧客の嗜好に合ったサービス・工夫を実施 ～ソフト面～

▶ 「JAPAN RAIL PASS」等により長距離移動可能な外国人は、遠方の観光地へも当たり前のように日帰りで移動する。東北で宿泊してもらうためには、**外国人の嗜好に合ったソフト面・ハード面におけるサービス・工夫を実施することが必要**

- インバウンド客の割合が低い段階では、大きな投資を伴いがちなハード面の整備よりも、食事やサービスといった**ソフト面での対応を中心に検討する**
- 各国の嗜好に合わせたメニュー提案、食事提供スタイル（泊食分離など）も検討する
- 『インバウンド客に不慣れなところも東北の魅力』。スタッフに外国語研修を実施し、流ちょうでなくとも心のこもった対応を心がける

【インバウンド客への対応に関する生の声（一部再掲）】

	ソフト面の対応
食事	▶ ハード面よりサービス面を訴求したセールスをしており、国ごと異なるニーズ（食事メニュー等）中心に作り上げていく。インバウンド客向けの施設的な特徴はとくに無い。【北海道・旅館】 ▶ 外国人には日本らしい食事（舟盛り、氷やぐら等）が評価される。自分で焼く等、一手間かける食事も人気。粘つくもの・生もの・匂いは苦手。台湾人には牛肉を好まない人もいる。【東北・旅館】 ▶ 台湾は派手好きでカニ・アワビは必須。また、赤が好まれるため、メニューは赤い紙で台湾語。箸置き等も赤。ただし、あくまで日本の旅館なので、全てを台湾に合わせることはしていない。【北陸・旅館】 ▶ 大型団体の食事は宴会場を使用。日本人にはワンドリンクサービスを導入しインバウンド客の少ない時間帯へ誘導。【北海道・旅館】 ▶ 常温水の提供、夏の鍋料理、フルーツの取り揃え等、インバウンド客を意識した食材調達やサービス対応が必要。【東北・旅館】 ▶ 一泊二食スタイルは受け入れられ難く、泊食分離を考えていく。【東北・旅館】
スタッフ・言語	▶ 英語は標準言語として対応可能。【東北・ホテル】 ▶ 台湾人スタッフが予約担当に勤務しており、エージェントとのやり取りや接客を対応している。言葉が通じる安心感は大きい様子。外国人スタッフ以外にも英語を話せるスタッフがおり、他の言語はタブレット端末で対応（ホテルは聞かれる事が決まっており、ある程度対応可能）。仲居さんは宴会で鍛えられ度胸がある。YES・NO・OKで接客している。少し不便・不慣れなところも良さとして評価されている様子。【東北・旅館】 ▶ 外国人は流ちょうな英語は期待していない。片言の英語で最低限度の会話が出来れば良いと考えている。【東北・旅館】 ▶ 都心と異なり海外経験があっても外国語のできる人材の確保は難しい。常にインバウンド客がいる状況ではないし、旅館の場合はマルチタスクが求められ、定着が難しい。客室係のように身振り手振りのコミュニケーションでも良い部門もあれば、フロントのように詳細かつ正確に対応すべき部門もある。【北陸・旅館】
その他	▶ インバウンド客は、客室のフロアを分けるといった工夫もしている。【北海道・旅館】 ▶ 荷物預かりの仕組み等も考えていかななくてはならない。【東北・旅館】 ▶ 現地の人にどうウケるかを考える必要があり、タイのプロモーションでは校正から印刷までタイで行った。【北陸・交通】

②顧客の嗜好に合ったサービス・工夫を実施 ～ハード面～

▶ インバウンド比率が低い段階では、投資が伴うハード整備は必要最低限に留め、**過剰な対応はしない**

- Wi-Fi、館内案内など基本的なハード整備以外は、インバウンド客の動向を見ながら順次検討していく
- 日本旅館であれば、和室を無理をして洋室に改築するのではなく、「魅力ある日本の宿を体験してもらおう」という位置づけも可
- 洋室に宿泊したいインバウンド客には他の施設を紹介する(提携する)⇒**単館同士での連携・周遊へ繋げていく**

【インバウンド客への対応に関する生の声（一部再掲）】

	ハード面の対応
客室	➢ 客室は99%和室。インバウンド客も「日本に来たのだから」と和室に泊まりたがるので問題はない。【北海道・旅館】 ➢ ベッド化が進んでいる。外国人客はツインの洋室に泊まることが多い。日本人でも高齢者はベッドを好み、食事も座敷からイス・テーブルにシフトしてきている。【東北・旅館】 ➢ インバウンド受け入れにはセキュリティ面でも課題がある。客室番号付きの鍵、フロントで部屋番号を読み上げるような事はある得ない。【東北・旅館】
Wi-Fi	➢ 要望はWi-Fi整備やアクセス面があげられることが多い。当館はWi-Fiは全室で対応。【東北・ホテル】 ➢ 現状はパブリックスペースのみ対応（インバウンド比率25～30%）。整備に1千万円掛かりWi-Fi整備に対する行政の補助を期待したい。【北海道・旅館】 ➢ 室数の少ない施設では、Wi-Fi整備よりWi-MAXを購入する方が安く有効。【東北・旅館】
案内表示	➢ インバウンド客が宿泊する際は、外国語のウェルカムボードを設置。館内案内パンフレットを日・英・韓・繁・簡に加えタイ語でも作成。【東北・旅館】 ➢ お風呂の利用案内は、日・英・韓・中の4ヶ国語で掲示。【北海道・旅館】 ➢ 食事やサイン等は長年の取り組みの中で改善。ただし、全て英訳することが正しいのかは考えどころ（大浴場を「Daiyokujyou」とすべきか「Public Bath」とすべきか。日本茶を「Ocha」とすべきか「Green Tea」とすべきか）。【北陸・旅館】
その他	➢ ハラールに関する問い合わせもあるが、専用キッチン等が必要で現状の客数では採算が合わない。将来的には祈祷所を設けるといった事も考えられるが、インバウンド客がコンマ数%の状況で設置する段階ではない。【東北・ホテル】

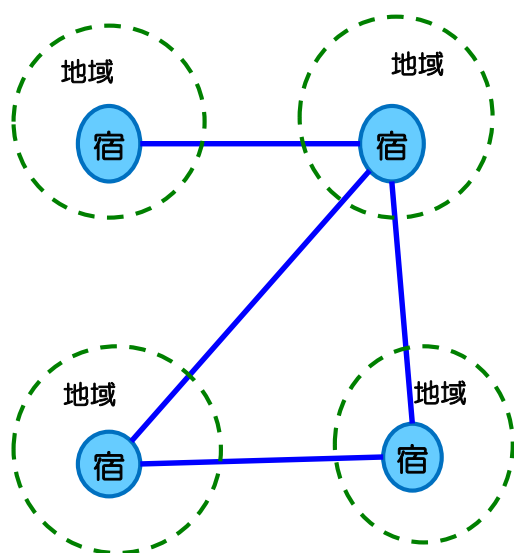
③他の施設と連携 ～宿泊施設同士の連携～

▶ 観光庁の訪日外国人消費動向調査によるとインバウンド客の**滞在期間は4～6日間が最も多い**。単館(1泊)だけで考えるのではなく、インバウンド対応に積極的な他の宿泊施設と連携することで、東北滞在中の魅力を高める(変化を付ける)ことを検討する

- 旅館同士の組み合わせ、旅館とホテル、会席料理とビュッフェ等で変化(当館に無いものは、他館で提供してもらう)
- **競争相手との連携(協調)**により、各施設のサービス水準を共に高め合い、東北宿泊滞在の魅力向上につなげる
- **東北地域の訪日外国人の特色やニーズ**に合わせて、互いの地域の弱みを補完し合い**連携を図る**。

⇒東北圏内において中長期的な広域連携を実施することを目指し、枠組みづくりに繋げていく。

【宿泊施設同士の連携・送客】



【東北の先行事例】

- A市のホテルとB地区の温泉リゾートによる「一泊目ホテル、二泊目温泉リゾート」という連携は好評。A市とB地区は距離があるが、**空港の弱さを補っていく取り組みも必要**。国内・県内の事業者との連携にアンテナを広げている。
- 当県で有名な**スキー場と連携したツアーを組む事が多い**。安定して客室が供給できる宿となるとそのスキー場となる。キーワードは「協調と競争」。**連携先は、競争相手でもあり、協調相手でもある**。
- 台湾で営業に回った結果、10～11月にかけて30名前後で7本、姉妹館にも1本ツアーを獲得した(青森in⇒秋田～岩手～宮城をバスで移動する、仙台空港outの4泊5日前後のツアー)。ルートづくりは重要で、**ルートが固まると何度も使ってもらえるようになる**。

【宿泊施設連携に関する生の声】

- 食事(A地区のバイキング、B地区の宴会場)」、「客室(B地区の和室、C地区の和洋室)」等、**変化のある組み合わせを提案できる**ところが当グループの強み。A地区・B地区・C地区の三館を組み合わせたツアーを提案できると良い。【北海道・旅館】
- 台湾のツアーは基本4泊5日で4ヶ所を回る行程が組まれ、当館には通常1泊、個人客では2泊の場合もある。以前は日本旅館1泊、ホテル3泊の組み合わせだったが、最近は**日本旅館に複数宿泊するケースもある**。ルートは20年間で大体出来てきている。【北陸・旅館】

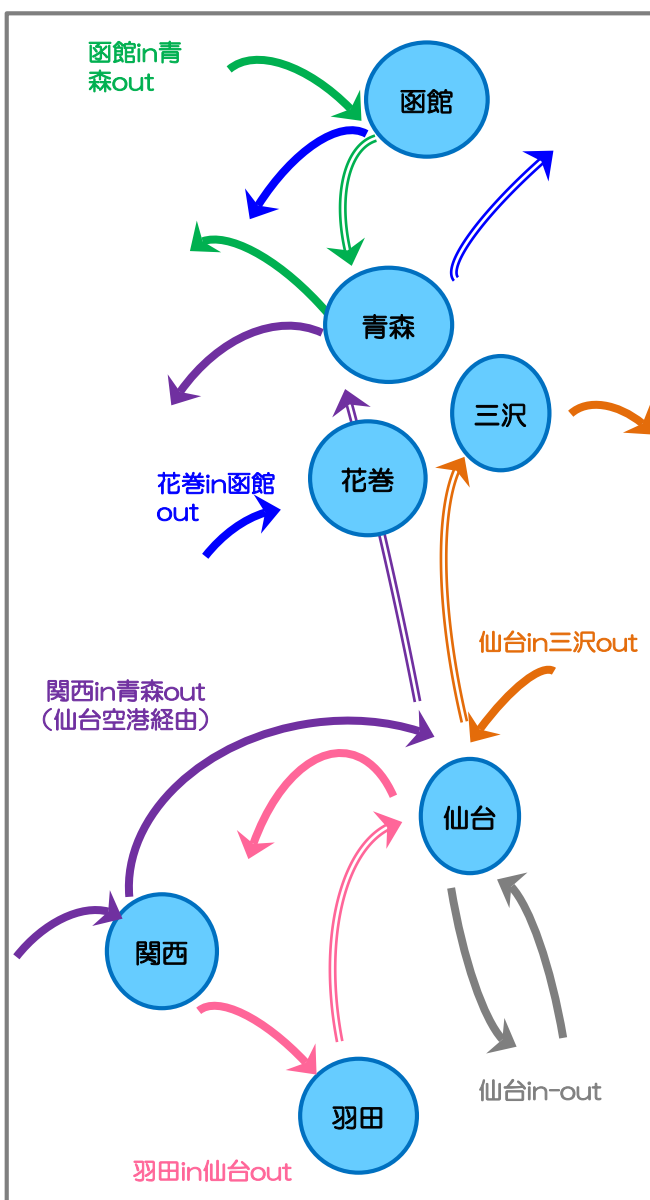
③他の施設と連携 ～宿泊施設連携からルート開発・空港間連携へ～

- ▶ 定期便の就航を待っているだけでは始まらない。インバウンド対応に積極的な宿泊施設同士の連携から、観光ルートの開発につなげていく。双方向での集客が求められる定期便よりも、柔軟な対応が可能なチャーター便から考えていく
- 個々の空港でのin-outに縛られることなく、インバウンド客の視点で空港を組み合わせ、東北全体での集客増、東北内の周遊を図る
 - 空港の組み合わせは二空港間だけではない。例えば関西in→仙台→青森・三沢outなども視野に、柔軟に組み合わせを検討する
 - 東北だけでなく北海道新幹線開業で注目される『函館・北海道』との連携も積極的に検討する

【ルート開発・空港連携に関する生の声】

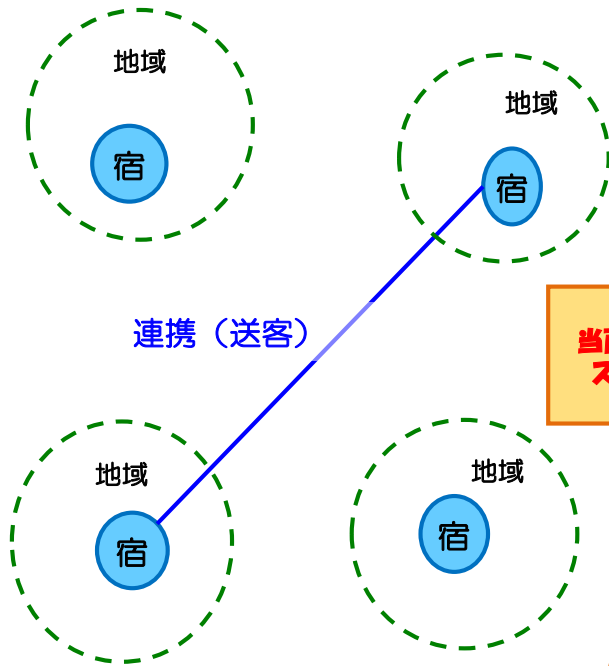
【in-out空港の組み合わせイメージ】

- ▶ 海外からの直行便の少なさは課題。航空会社としてはアウトバウンドがないとロードファクターが上がらないので厳しい。定期便が少ないため多少先見のあるエーเจント等がチャーターを使っているが東北全体の広域周遊にはなっていない。【東北・観光関連団体】
- ▶ 定期便では旅客の双方向性が求められるため、地方空港で本当に定期便を目指すのかは疑問を感じる。チャーター便の良さは、行きは旅客を乗せてきて、帰りは乗せずに帰るのも可能なこと（今は別の団体に乗せて帰るようになってきた）。大阪に入り仙台に飛行機で移動し、秋田・青森から帰るといった組み合わせもある。二空港間の単純な往復だけでなく三空港間での運航の可能性も有る。縦横無尽にルートを組みたい。東北の空港同士の連携も必要。【東北・旅館】
- ▶ 当館から、函館→洞爺湖→札幌out等の組み合わせが多い。千歳in-outが基本だが、最近は千歳・函館・旭川を組み合わせる空港を変えるケースもある。【北海道・旅館】
- ▶ 航空会社が異なるので組み合わせないという課題もある。【九州・旅館】
- ▶ 昇龍道ルートが人気。セントレアinが多く飛騨高山→アルペンルート→富山・金沢→和倉。小松空港も使われるが一度は名古屋に行く行程が組まれる。【北陸・交通】

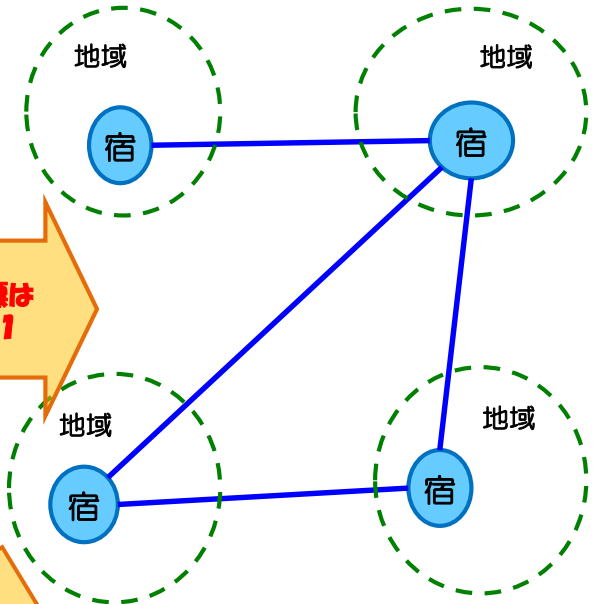


『地域を超えた、宿to宿の東北流おもてなし』の展開イメージ

現状は個々の取り組み（一部で宿間の連携も）

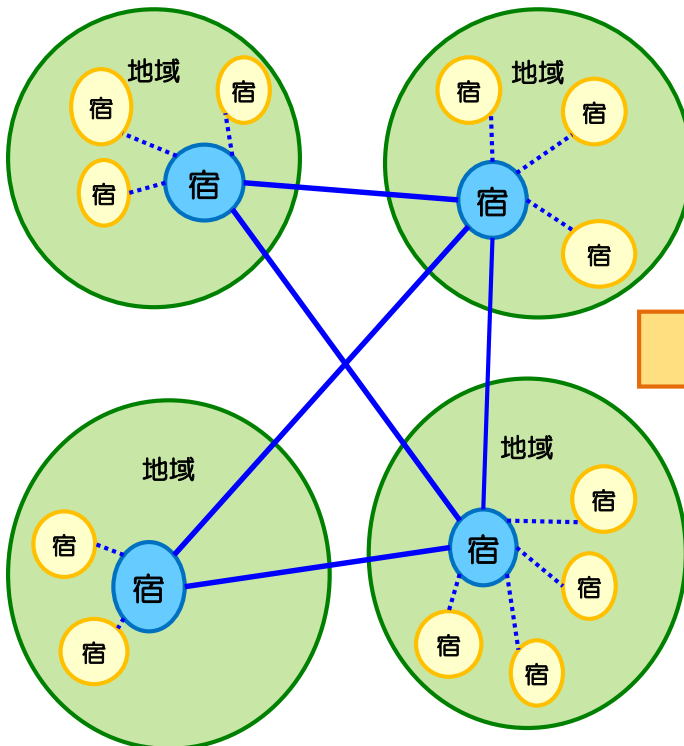


ステージ1：積極的な宿同士の連携を活発に（宿間の広域連携）

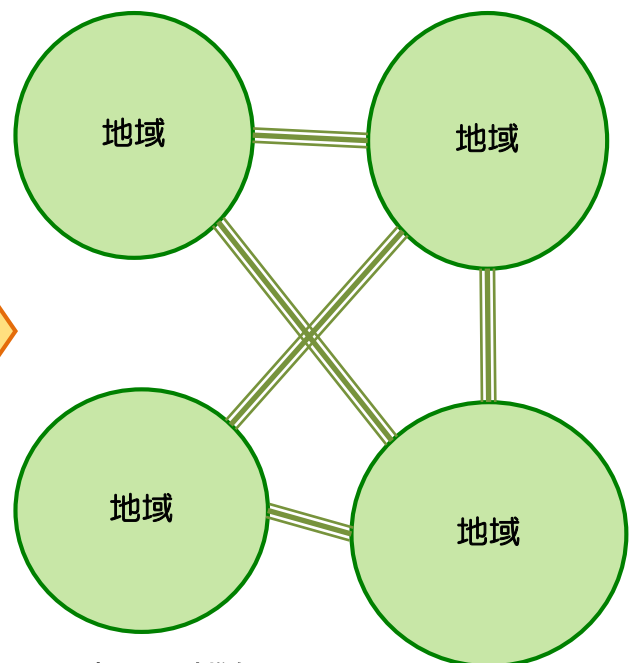


当面の目標は
ステージ1

ステージ2：積極的な宿を中心に地域内で連携に広がり



ステージ3：地域間での連携に広がり（地域間の広域連携）



※宿同士の連携も活発化
（イメージ図上は省略）

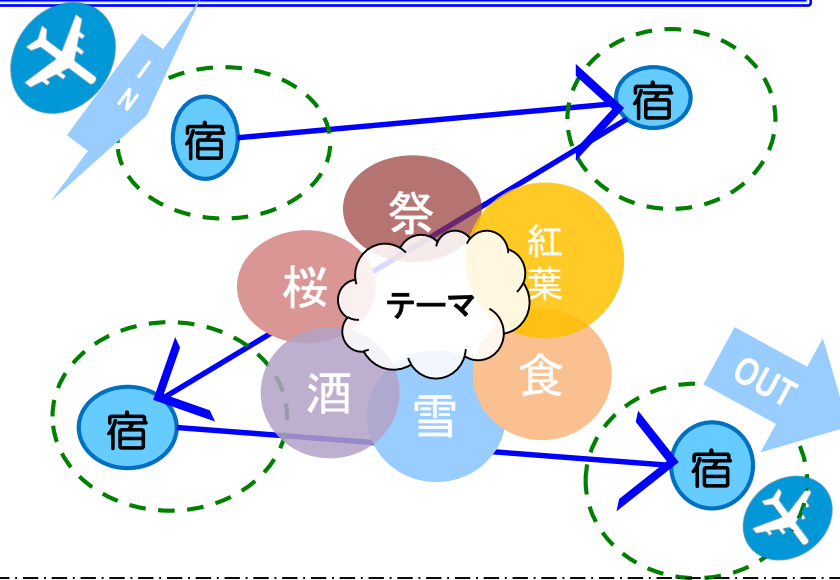
宿泊施設における連携の展開イメージ（例）

テーマに沿った、各地域・宿同士の連携

- ▶ 食や自然、季節の催し物等を**テーマ**として、「共通したテーマを持つ地域」の連携に繋げる（四季毎に花見・夏祭り・紅葉・雪...と変容させる）
 - 単館同士の連携だけでなく、地域を越えた、**複数の宿泊施設における連携を実施することで、周遊・延泊を促していく。**
 - In-outは必ずしも**東北に限らず、広範囲での連携も視野に入れる。**

日本に来るのは2回目だから、今回は、各地のお酒を飲み比べするような旅をしたい。

ニーズA

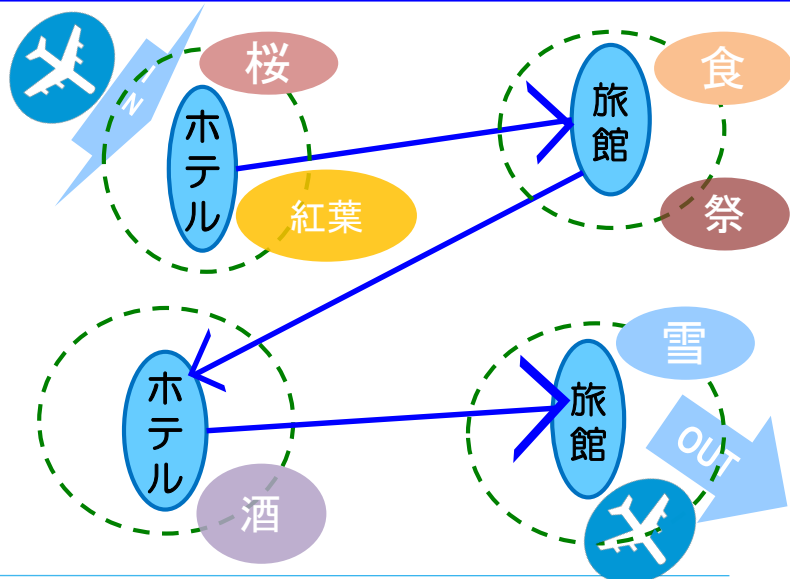


互いの特徴を活かし、様々なテーマの体験を可能にする連携

- ▶ 各地域・宿の特徴を活かし、様々なテーマでの体験を可能にする連携
 - 各地域の強みであるテーマを体験してもらい、**一つの旅で様々な体験ができる周遊コースの提案を実施。**
 - ホテル・旅館など異なるタイプの宿泊施設が連携することで、**互いの弱みを補完し合いながら、多様なニーズに対応できる連携づくりを目指す。**

初めて日本に来たので、まずは色々な場所に訪問して、様々な体験をしてみたい。

ニーズB



参考資料

(参考) 東北における国際会議開催件数推移

①東北における国際会議開催件数推移

・国際会議の開催は**宮城県が多い**。「国際会議統計」によると、青森は弘前市、岩手は盛岡市、秋田は秋田市、仙台は仙台市、福島は会津若松や福島市等で国際会議が行われている。

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
青森県	3	1	1	7	3	5
岩手県	2	1	6	1	3	3
宮城県	66	67	74	42	85	81
秋田県	3	7	1	2	1	2
山形県	2	1	2	2	3	0
福島県	1	2	2	0	18	10
東北6県計	77	79	86	54	113	101

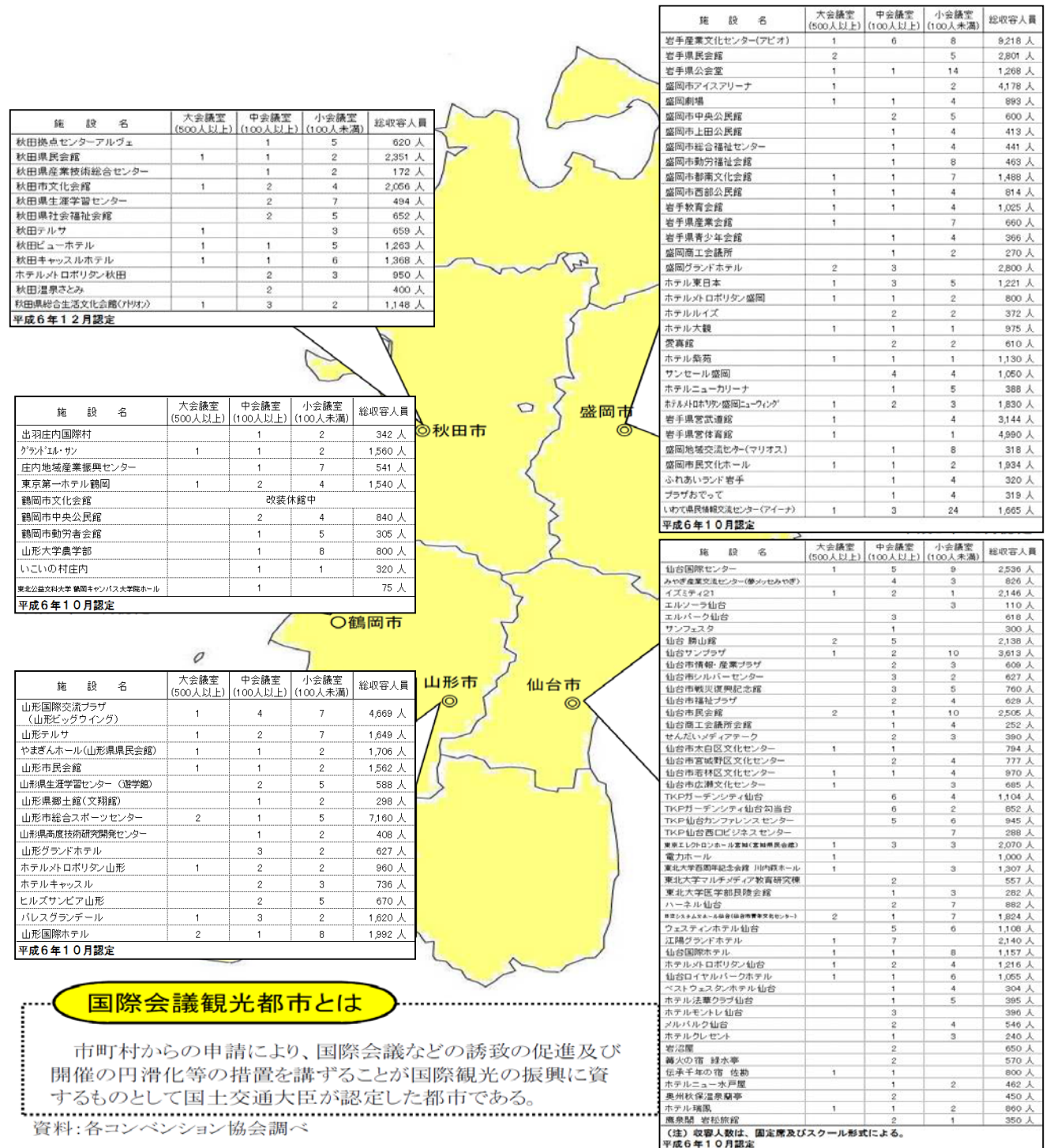
	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
北海道	87	92	97	81	68	98
北陸	49	74	76	60	72	61
九州 (ほぼ福岡県)	285	321	313	331	337	348

※出典： 日本政府観光局（JNTO）「国際会議統計」国内都市別 国際会議開催件数より日経研作成

（参考）東北における国際会議観光都市および施設

②東北における国際会議観光都市および施設

・東北における国際会議観光都市には、秋田市・盛岡市・仙台市・鶴岡市・山形市が認定されている。



国際会議観光都市とは

市町村からの申請により、国際会議などの誘致の促進及び開催の円滑化等の措置を講ずることが国際観光の振興に資するものとして国土交通大臣が認定した都市である。

資料：各コンベンション協会調べ

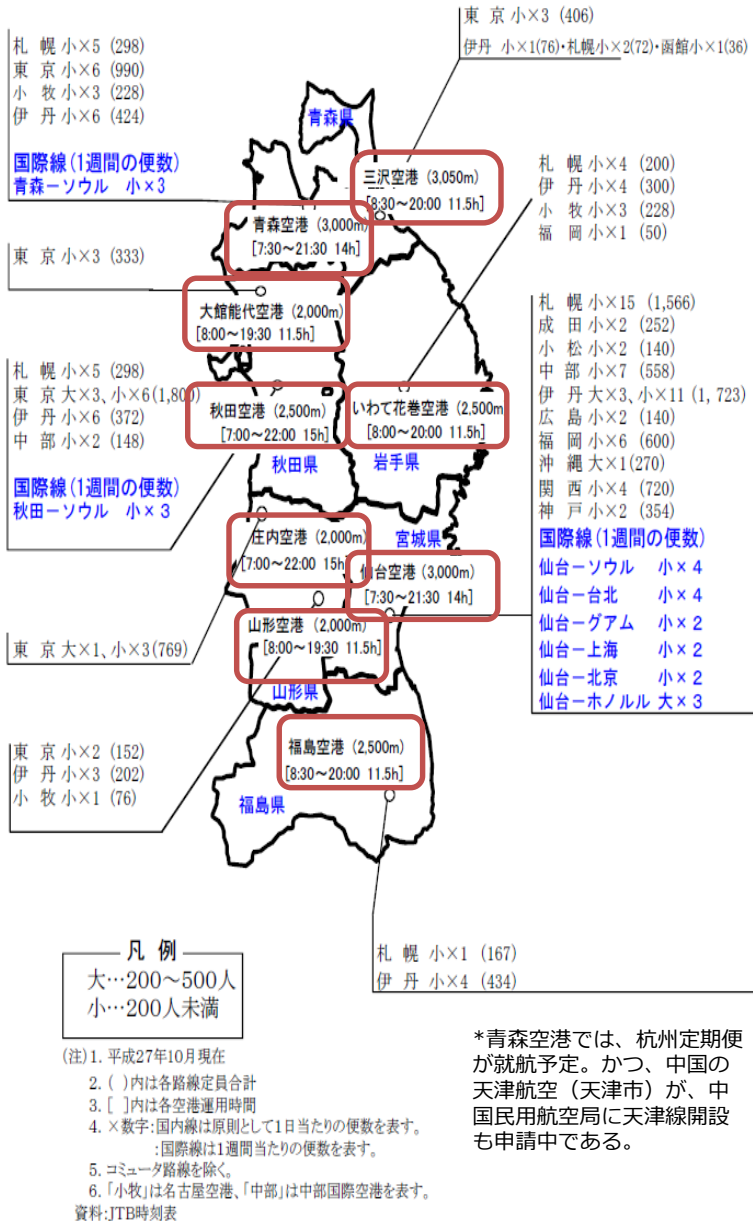
平成27年3月現在

(参考) 東北の空港路線

③東北の空港路線

・国際定期路線を持っているのは仙台・青森・秋田であるが、その他の空港においてもチャーター便の運航が実施されており、台湾便が多い。

事業者の法人別割合



空港名	国内路線	国際路線	チャーター便※
仙台空港	札幌・成田・小松・中部・伊丹・関西・神戸・広島・福岡・那覇	ソウル・グアム・上海・北京・台北・ホノルル	タイ・香港・ハノイ・ホーチミン・シンガポール・ソウル・グアム・ソウル・スペイン
青森空港	札幌・羽田・小牧・伊丹	ソウル	台北・シンセン・バンコク・高雄・カンボジア・シンガポール・グアム
三沢空港	羽田・札幌・伊丹		ホノルル・オーストラリア・台北
いわて花巻空港	札幌・小牧・伊丹・福岡		高雄・台北・バンコク
山形空港	羽田・伊丹・小牧		台北・台中・韓国 他多数
庄内空港	羽田		台北・ハルビン・香港・韓国
秋田空港	札幌・羽田・伊丹・中部	ソウル	台北・ハワイ
大館熊代空港	羽田		台北
福島空港	札幌・伊丹		台北・ハノイ・ホーチミン・ジャカルタ・カンボジア

※出典：東北運輸局「図で見る東北の運輸2015」

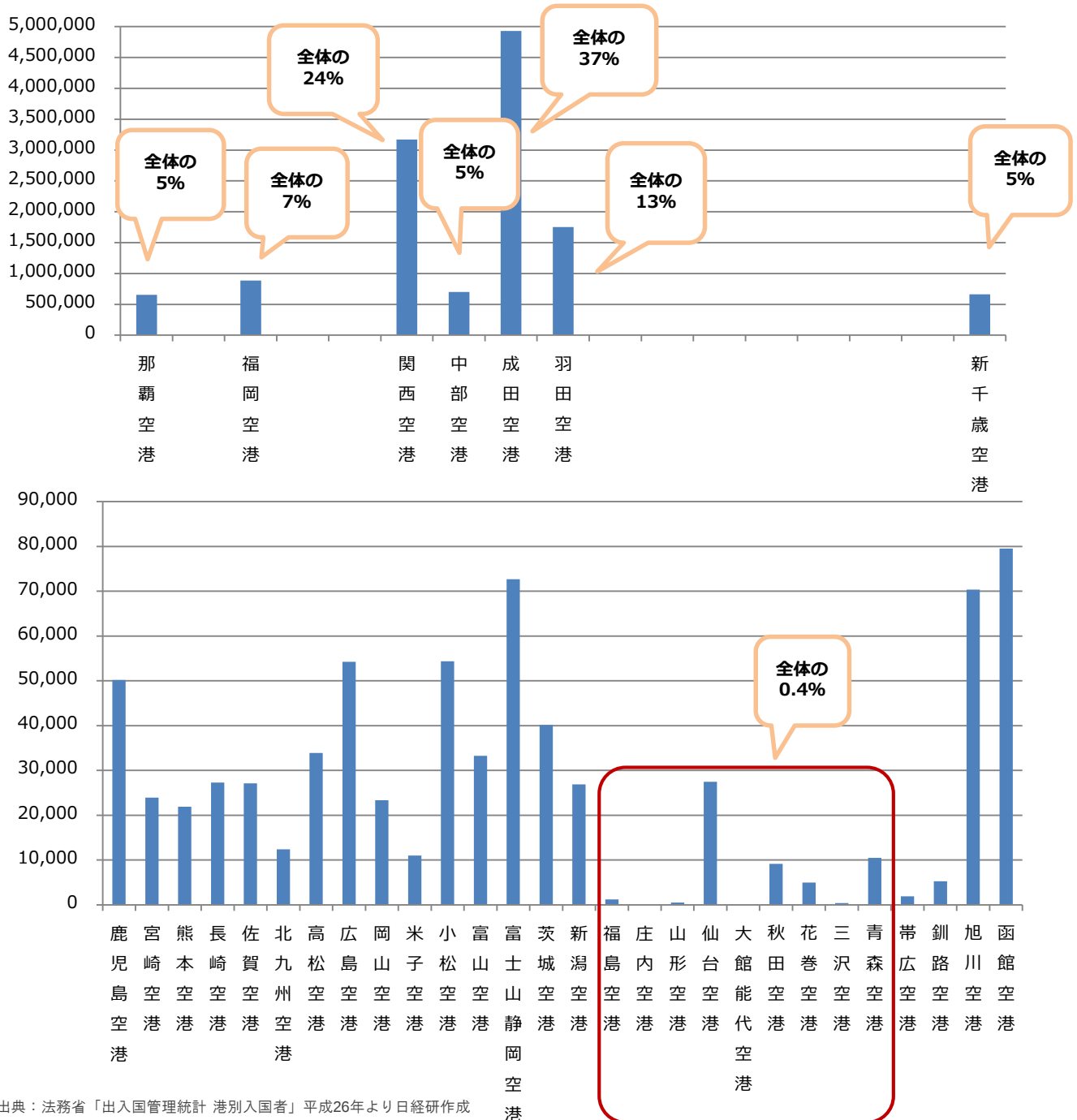
※チャーター便については、日経研にてニュースや旅行会社HP等で検索した主な事例を掲載。

(参考) 各空港の外国人入管人数

④各空港の外国人入管人数

- ・ 入国外国人の9割以上が主要7空港に集中している。
- ・ 東北の空港外国人入国者数は、**東北で全体の0.4%とわずか**。

各空港の外国人入国者数（人）

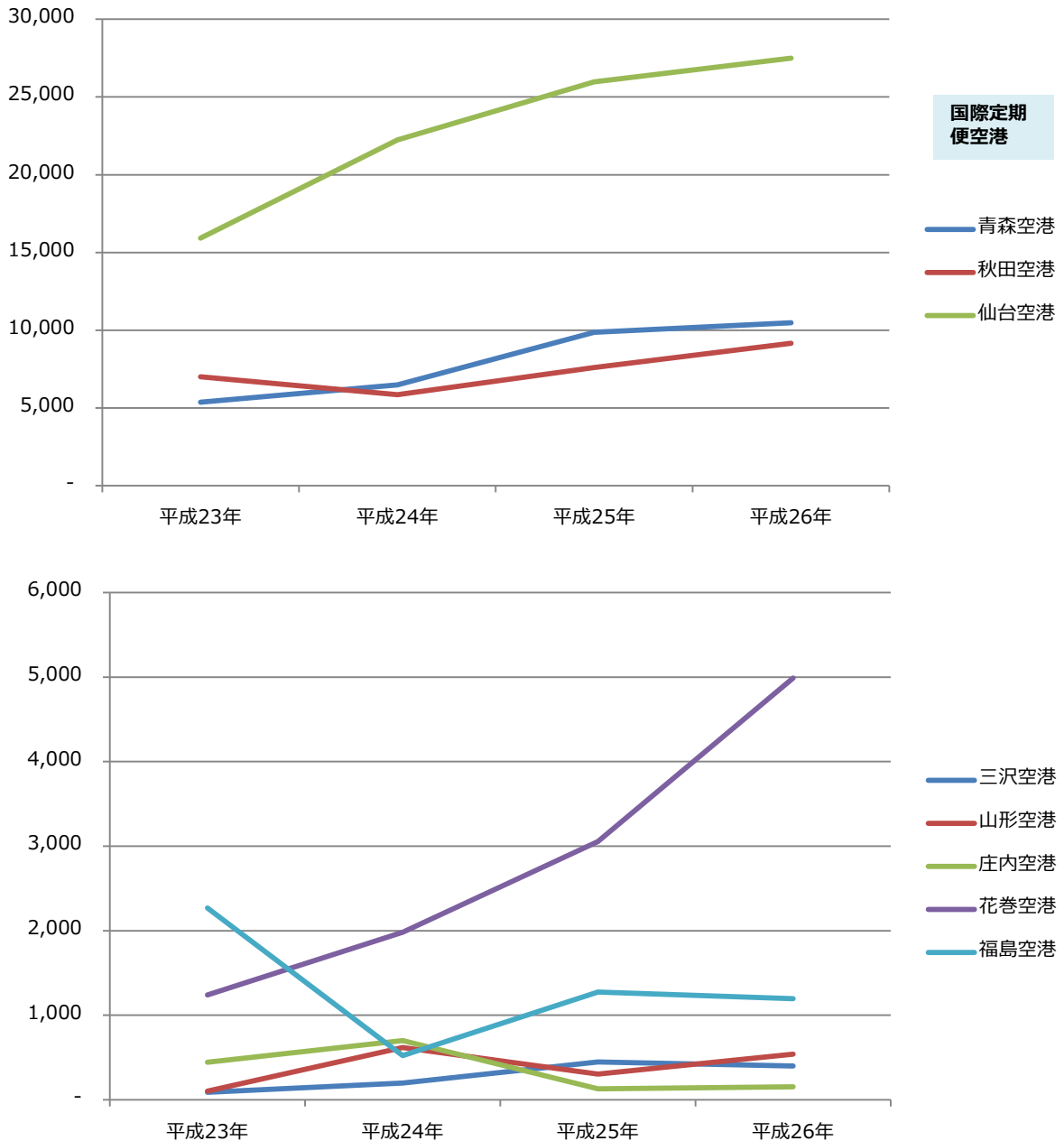


(参考) 空港別外国人入国者数推移

⑤ 空港別外国人入国者数推移

・ 国際定期便のある空港においては、外国人入国者は増加傾向にある。国際定期便がない花巻空港においても外国人入国者が近年増加しており、チャーター便が活用されていることが推測される。

各空港の外国人入国者数推移（人）



※出典：法務省「出入国管理統計 港別入国者 平成26年」より日経研作成

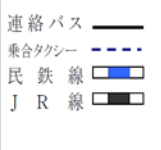
(参考) 空港アクセス

⑥空港アクセス

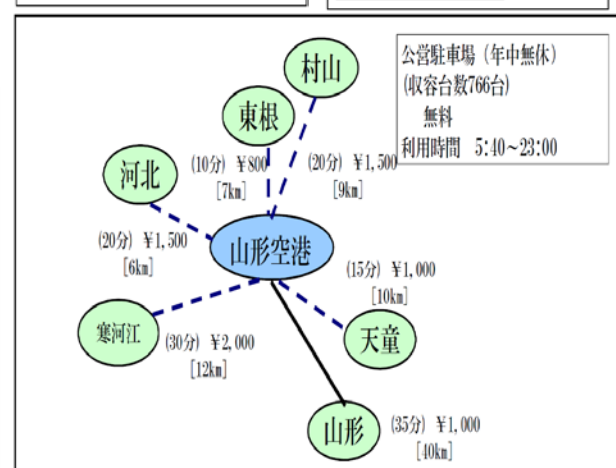
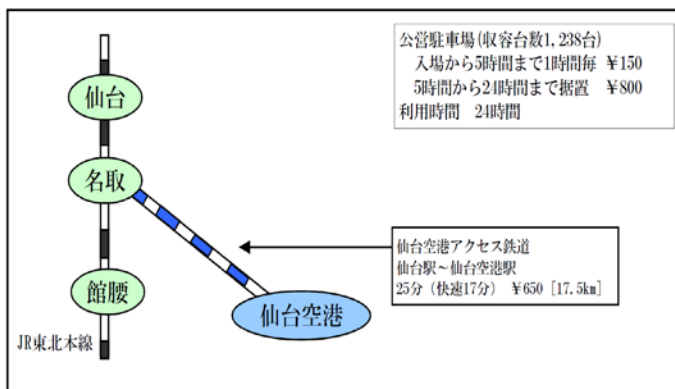
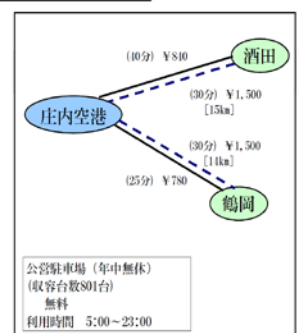
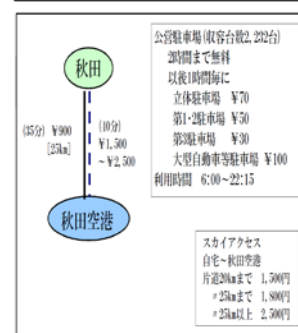
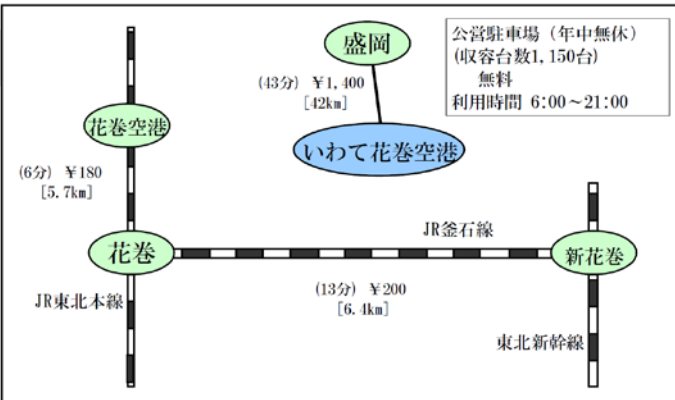
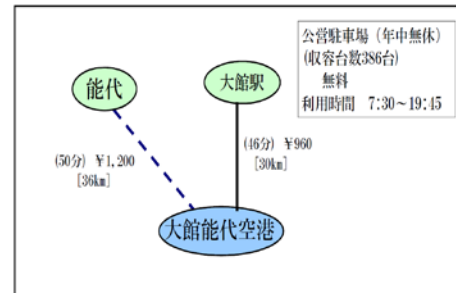
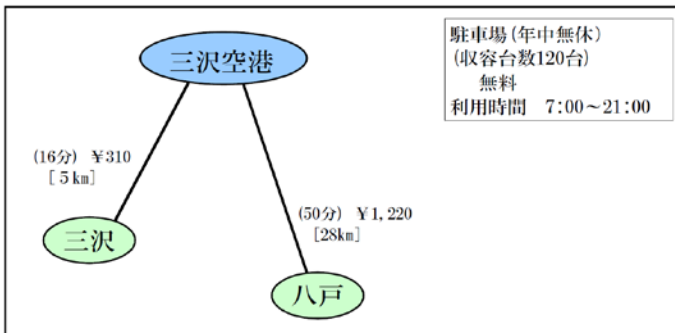
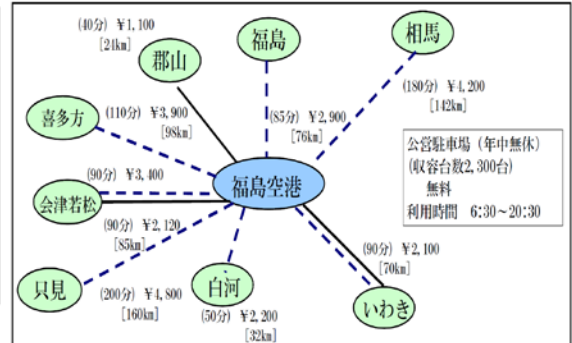
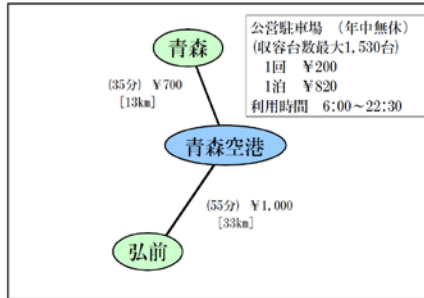
- ・ 空港へのアクセス鉄道があるのは仙台空港のみとなっている。

各空港アクセス

凡 例



()は所要時間、[]は距離
アクセス状況は平成27年10月現在
※所要時間は道路状況などによって変わります



※出典：東北運輸局「図で見る東北の運輸2015」

(参考) 東北の夏祭り観光入込数推移

⑦東北の夏祭り観光入込数推移

東北の夏祭り観光入込数（万人、％）

		開催地	入込客数								2015年 開催期間
			2010年	2011年	2012年	2013年	2014年		2015年		
								前年比		前年比	
青森県			710.8	720.8	714.3	716.3	637.3	▲ 11.0	679.8	6.7	
	青森ねぶた祭	青森市	297	266	282	285	259	▲ 9.1	269	3.9	8/2(日)～ 8/7(金)
	弘前ねぶたまつり	弘前市	163	161	162	163	130	▲ 20.2	164	26.2	8/1(土)～ 8/7(金)
	五所川原立佞武多	五所川原市	147	174	161	157	134	▲ 14.6	134	0.0	8/3(月)～ 8/8(土)
	八戸三社大祭	八戸市	103.8	119.8	109.3	111.3	114.3	2.7	112.8	▲ 1.3	7/31(金)～ 8/4(火)
秋田県			215	200	215.3	217	198	▲ 8.8	211	6.6	
	秋田竿燈まつり	秋田市	135	130	139.3	141	126	▲ 10.6	140	11.1	8/4(火)～ 8/6(木)
	全国花火競技大会	大仙市	80	70	76	76	72	▲ 5.3	71	▲ 1.4	8/22(土)
岩手県			168.8	162.1	151.4	169.3	172.2	1.7	176.5	2.5	
	盛岡さんさ踊り	盛岡市	135.2	136.1	122	130.4	136.5	4.7	138.5	1.5	8/1(土) ～ 8/5(火)
	北上・みちのく 芸能まつり	北上市	33.6	26	29.4	38.9	35.7	▲ 8.2	38.0	6.5	8/7(金)～ 8/9 (日)
山形県			146	134	152	143	115.5	▲ 19.2	149	29.0	
	山形花笠まつり	山形市	100	91	100	90	63	▲ 30.0	98	55.6	8/5(水)～ 8/7(金) (2014年は1日中止のため 2日間の合計)
	新庄まつり	新庄市	46	43	52	53	52.5	▲ 0.9	51	-2.9	8/24(月)～ 8/26(水)
宮城県			235.7	203.3	200.2	206.3	204.2	▲ 1.0	217.7	6.6	
	仙台七夕まつり	仙台市	235.7	203.3	200.2	206.3	204.2	▲ 1.0	217.7	6.6	8/6(木)～ 8/8(土)
福島県			84.9	67.7	76.4	73.6	79.5	8	79.2	-0.4	
	相馬野馬追	相馬市他	21.4	3.7	15.9	16.6	19.5	17.5	20.7	6.2	7/25(土)～ 7/27(月)
	郡山うねめまつり	郡山市	35.5	41	35.5	33	35	6.1	33	-5.7	8/6(木)～ 8/8(土)
	福島わらじまつり	福島市	28	23	25	24	25	4.2	25.5	2.0	7/31(金)～ 8/1(土)
合計			1,561.20	1,487.90	1,509.60	1,525.50	1,406.70	▲ 7.8	1513.22	7.6	

※出典：日銀資料、各所HP資料、ヒアリングより作成

(参考) 東京からの乗車時間と鉄道網

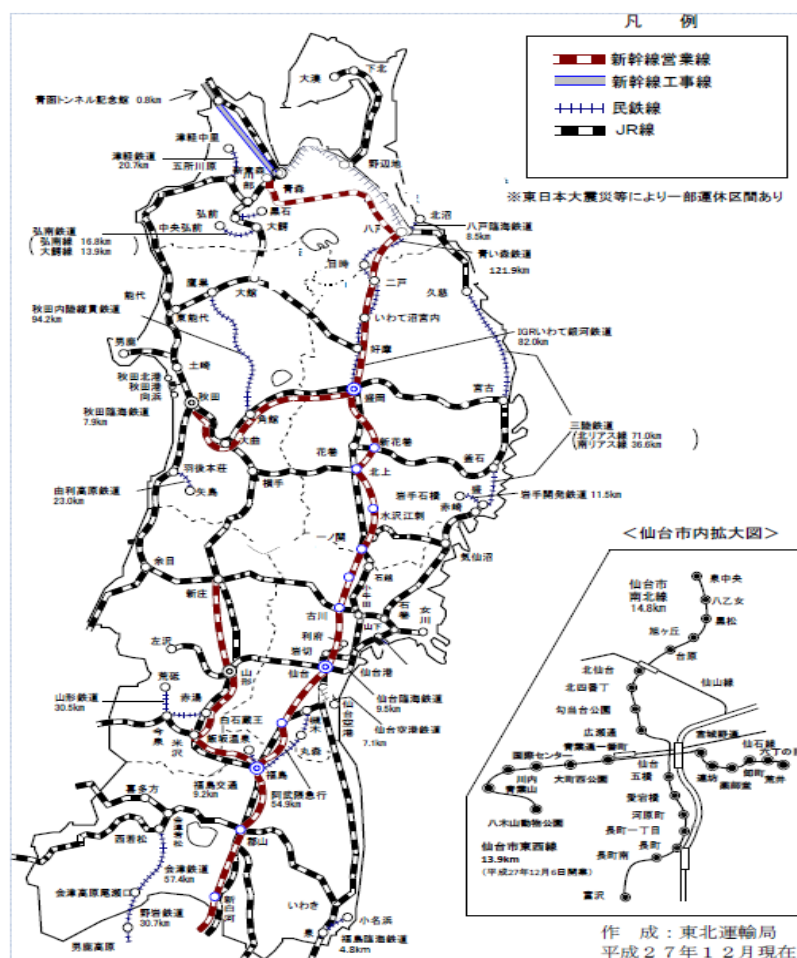
⑧東京⇒東北の列車利用による乗車時間と鉄道網

東京から東北都市への最速乗車時間

都市名	青森	盛岡	仙台	秋田	山形	福島	金沢
乗車時間 (分)	186	131	91	230	168	82	153
距離 (km)	717.6	535.3	351.8	662.6	359.9	272.8	450.5
備考	乗換1回	乗換0回	乗換0回	乗換0回	乗換0回	乗換0回	乗換0回

都市名	弘前	宮古	石巻	男鹿	酒田	会津若松	小松
乗車時間 (分)	219	250	170	286	226	146	189
距離 (km)	742.2	637.4	401.5	702.2	502.1	291.3	478.9
備考	乗換1回	乗換1回	乗換1回	乗換2回	乗換1回	乗換1回	乗換1回

鉄道路線網および整備プロジェクト

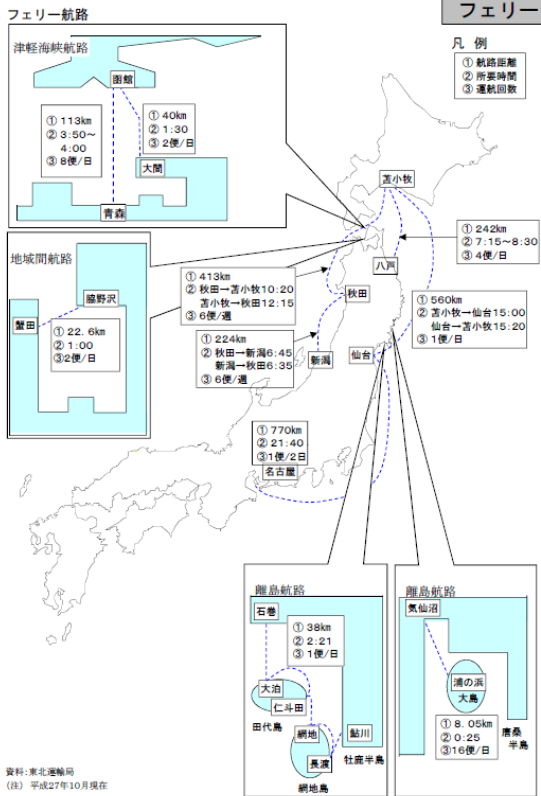


※出典：東北運輸局「図で見る東北の運輸2015」
男鹿は1日で移動できる最速時間を記載

(参考) フェリーとクルーズ船就航

⑨フェリーとクルーズ船就航

フェリー就航状況



クルーズ船の寄港回数 (2014年)

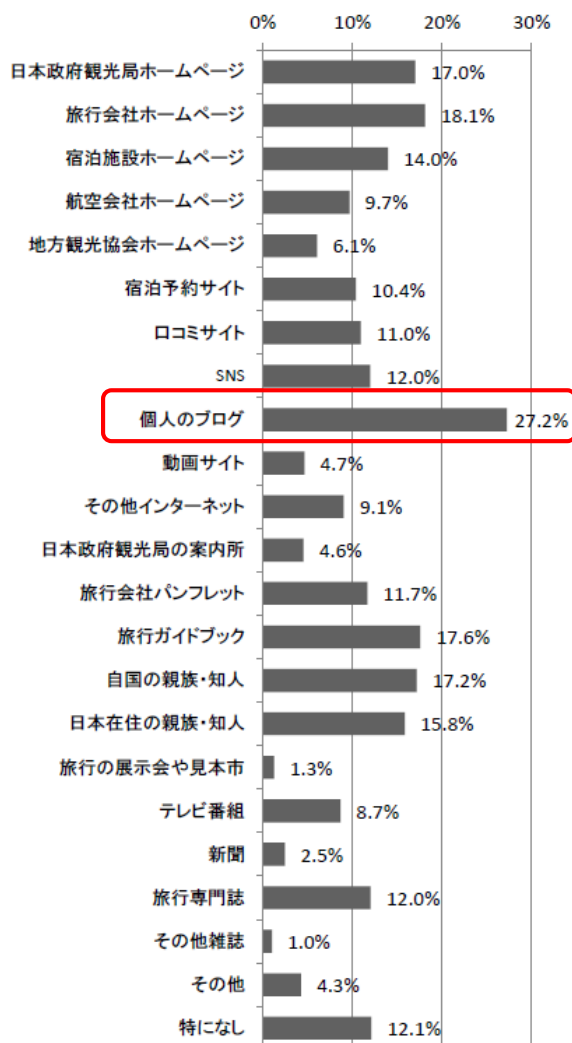
順位	港湾名	回数	順位	港湾名	回数	順位	港湾名	回数
1	横浜	146		高松	6	73	稚内	1
2	博多	115	38	酒田	5		根室	1
3	神戸	100		新潟	5		江差	1
4	那覇	80		徳島小松島	5		鴛泊(利尻島)	1
5	長崎	75		八代	5		奥尻(奥尻島)	1
6	石垣(石垣島)	73		油津	5		七里長浜	1
7	小樽	41	43	苫小牧	4		久慈	1
8	函館	36		香深(礼文島)	4		能代	1
9	鹿児島	33		宮古	4		船川	1
10	名古屋	30		茨城	4		館山	1
11	釧路	24		輪島	4		神津島	1
12	東京	22		姫路	4		両津(佐渡島)	1
13	青森	20		松山	4		二見(佐渡島)	1
14	室蘭	16		細島	4		七尾	1
	金沢	16	51	留萌	3		福井	1
	宮之浦(屋久島)	16		大船渡	3		田子の浦	1
17	二見(父島)	15		八丈島	3		宮津	1
	舞鶴	15		鳥羽	3		温泉津	1
19	広島	14		和歌山下津	3		呉	1
20	清水	13		鳥取	3		水島	1
	大阪	13		厳島	3		仙崎	1
	名瀬(奄美大島)	13		萩	3		坂手(小豆島)	1
23	網走	12		宇和島	3		内海(小豆島)	1
	別府	12		あしずり	3		宮浦(直島)	1
25	境	11		唐津	3		今治	1
26	仙台塩釜	10		福江(福江島)	3		北九州	1
	佐世保	10		平良(宮古島)	3		厳原(対馬島)	1
28	伏木富山	9	64	八戸	2		郷ノ浦(舌岐島)	1
	高知	9		小木(佐渡島)	2		川内	1
30	下関	8		日高	2		青方(中通島)	1
31	杓形(利尻島)	7		宿毛湾	2		熊本	1
	秋田	7		浜田	2		志布志	1
	四日市	7		西之表(種子島)	2		古仁屋(奄美大島)	1
	新宮	7		本部	2		平土野(徳之島)	1
	宇野	7		座間味	2		和泊(沖永良部島)	1
36	敦賀	6		船浦(西表島)	2		与論(与論島)	1
						合計	1,204	

※出典:東北運輸局「図で見る東北の運輸2015」
国土交通省「2014年の我が国のクルーズ等の動向」

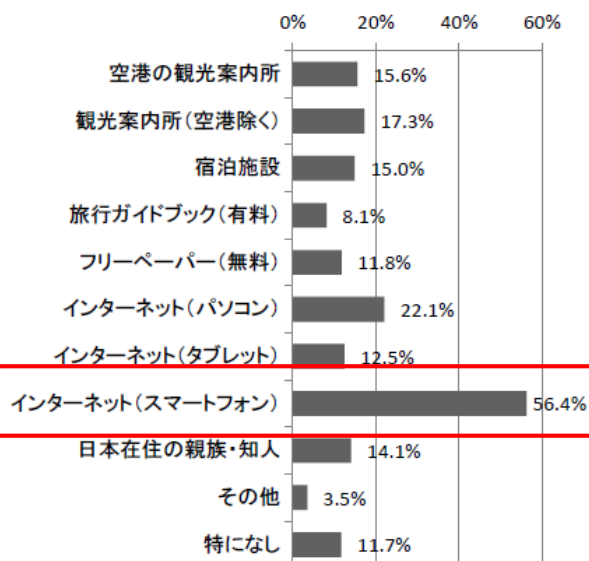
(参考) 訪日外国人の旅行情報源

⑩訪日外国人の旅行情報源

出発前に得た旅行情報で役に立ったもの



滞在中に得た旅行情報で役に立ったもの



※出典：観光庁「訪日外国人の消費動向」平成27年 年次報告書

当資料の分析内容・意見に関わる箇所は、筆者個人に帰するものであり、株式会社日本政策投資銀行の公式見解ではございません。また、当資料に記載された内容について、特定の取引等を勧誘するものではなく、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。当資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。当資料の全文または一部を転載・複製する際は、著作権者の許諾が必要ですので、当行までご連絡下さい。著作権法の定めに従い、転載・複製する際は必ず、出所：日本政策投資銀行と明記して下さい。

（お問い合わせ先）

（株）日本政策投資銀行 東北支店 担当：企画調査課 TEL022-227-8182（担当：仲倉、熊谷）